
第 4 章 セットアップ

この章は、本サーバを動かす上で必要となる環境設定の方法を解説しています。

CONTENTS

4.1 セットアップの概要	52
4.2 ハードウェアの設定	53
4.3 BIOS セットアップユーティリティを使う	55
4.4 SCSI Select ユーティリティを使う	102
4.5 BIOS 設定情報の退避 / 復元	118

4.1 セットアップの概要

本サーバを正常に機能させるためには、以下に示す作業を正しく行う必要があります。

ハードウェアの設定

サーバ本体や本体に装着するオプション装置、拡張カードのスイッチやジャンパピンなどの物理的な設定を実施し、確認します。このセットアップに誤りがあると、サーバが動作しない、または正しく機能しません。本章では、サーバ本体にあるジャンパ設定について説明します。サーバ本体に内蔵するハードディスクドライブ、ドライブユニットおよび拡張カードの設定については、「第5章 内蔵オプションの取り付け」(123 ページ) および各オプション装置に添付の取扱説明書をご覧になり、正しく設定してください。

「4.2 ハードウェアの設定」(53 ページ) 参照

BIOS セットアップユーティリティ

BIOS (Basic Input Output System) は、キーボードやディスプレイなどの入出力装置を制御する基本的なソフトウェアです。BIOS セットアップユーティリティは、ハードウェアの設定を行う場合に使用します。本ユーティリティで設定したオプションパラメータは、サーバ本体内の CMOS RAM (以下、CMOS) および NVRAM に書き込まれます。

「4.3 BIOS セットアップユーティリティを使う」(55 ページ) 参照

SCSI Select ユーティリティ

本サーバのオンボード SCSI と SCSI 装置 (内蔵 DAT ユニットなど) に関する各種設定ができます。SCSI Select ユーティリティを使い、それぞれの SCSI バスに対して設定します。

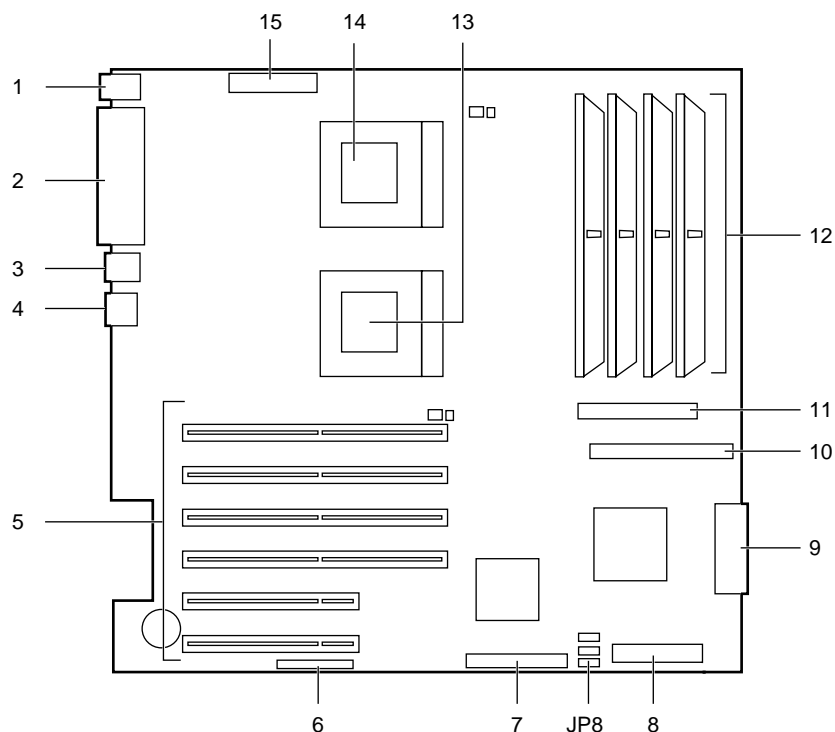
「4.4 SCSI Select ユーティリティを使う」(102 ページ) 参照

4.2 ハードウェアの設定

ベースボード各部の名称とコンフィグレーションジャンパの設定は以下のとおりです。

ベースボード各部の名称

ベースボード各部の名称は以下のとおりです。



- | | |
|---|--------------------|
| 1 マウスコネクタ / キーボードコネクタ | 9 Wide SCSIコネクタ2 |
| 2 パラレルポートコネクタ / シリアルポートコネクタ / VGAコネクタ | 10 Narrow SCSIコネクタ |
| 3 USBコネクタ1 / USBコネクタ2 (Windows 2000 Serverの場合だけ使用可) | 11 IDEコネクタ |
| 4 10/100BASE-TXコネクタ | 12 DIMMスロット |
| 5 PCIスロット | 13 CPUスロット2 |
| 6 拡張機能用コネクタ | 14 CPUスロット1 |
| 7 フロッピーディスクコネクタ | 15 電源コネクタ |
| 8 Wide SCSIコネクタ1 | |

コンフィグレーションジャンパ

ベースボード上のコンフィグレーションジャンパの設定について説明します。

ジャンパ 番号	ジャンパの設定（ショートの設定）	
JP8 (注)	1-2	BIOS 起動時にパスワードによるセキュリティ機能を有効に しない (工場出荷設定値)
	2-3	BIOS 起動時にパスワードによるセキュリティ機能を有効に する

注) JP8 の使用方法については、「4.3.13 System Security メニュー」の「 Supervisor Password および User Password のパスワードの設定方法」(86 ページ)を参照してください。



感 電



ジャンパを設定する場合は、サーバ本体および接続されている装置の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとで設定してください。感電の原因となります。

4.3 BIOS セットアップユーティリティを使う

BIOS セットアップユーティリティの概要や始め方について説明します。

4.3.1 BIOS セットアップユーティリティを使うとき

BIOS セットアップユーティリティとは、メモリやハードディスク、フロッピーディスクドライブなどのハードウェア環境を設定するためのプログラムです。

BIOS セットアップユーティリティは、以下の場合に行います。

- PCI カードの設定を行う場合
(「4.3.16 Advanced Options メニュー」の「 PnP/PCI Options メニュー」(96 ページ) 参照)
- パスワードの設定をする場合
(「4.3.13 System Security メニュー」(84 ページ) 参照)

また、POST 中にエラーメッセージが表示されたときの対処として、BIOS セットアップユーティリティの設定内容を確認する必要があります。

(「第 8 章 故障かな? と思ったときには」の「8.2 エラーメッセージ」(299 ページ) 参照)



ヘルプ

BIOS セットアップユーティリティで設定した内容は、サーバ本体内部の CMOS RAM (以下、CMOS) および NVRAM に記録されます。この CMOS は、内蔵バッテリーによって情報を保持しています。

セットアップを正しく行っても、POST でセットアップに関するメッセージが表示される場合は、CMOS に設定内容が保存されていないおそれがあります。原因としてバッテリーが消耗していることが考えられますので、担当保守員までご連絡ください。

4.3.2 BIOS セットアップユーティリティの起動と終了

BIOS セットアップユーティリティの起動方法と終了の方法は、以下のとおりです。

BIOS セットアップユーティリティの起動方法

⚠ 注意

BIOS セットアップユーティリティを起動する前に、「RAS 支援サービス」の起動監視機能 (POST 監視) が「監視しない」に設定されていることを確認してください (初期値は「監視しない」です)。

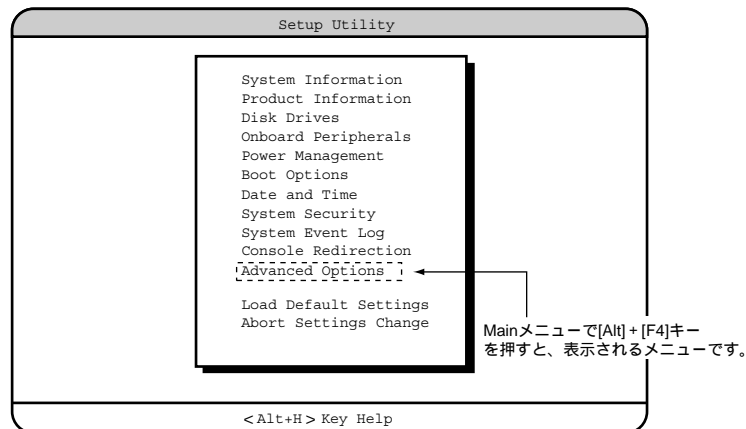
「監視する」に設定したまま、BIOS セットアップユーティリティを起動すると、本サーバが自動的に電源切断や再起動するなど、意図しない動作をするおそれがあります。

「RAS 支援サービス」の起動監視機能を「監視する」に設定して運用している場合は、BIOS セットアップユーティリティ終了後、再度「RAS 支援サービス」で起動監視機能を「監視する」に設定してください。

RAS 支援サービスについては、「6.8 RAS 支援サービスについて」(255 ページ) を参照してください。

BIOS セットアップユーティリティの起動方法は以下のとおりです。

- 1 サーバ本体の電源を入れます。
- 2 POST のメモリカウント終了後、画面に [Enter Setup, Press Ctrl_Alt_Esc key] が表示されたら、メッセージが表示されている間に、[Ctrl] + [Alt] + [Esc] キーを押します。
メインメニュー画面が表示されます。



BIOS セットアップユーティリティの終了方法

BIOS セットアップユーティリティの終了方法は、以下のとおりです。

- 1 [Main] メニューから [Esc] キーを押します。次のメッセージが表示されます。

- 設定内容を変更しないで終了した場合

Do you really want to exit SETUP?

- 設定内容を変更して終了した場合

Settings have been changed.

Do you want to save CMOS settings?

- 2 [] キーで Yes か No にカーソルを合わせて [Enter] キーを押します。

- 設定内容を変更しないで終了する場合
そのまま終了するときには、「Yes」を選択します。本サーバが再起動されます。
終了せずに BIOS セットアップユーティリティに戻るときには、「No」を選択します。
- 設定内容を変更して終了する場合
設定内容を保存するには、「Yes」を選択します。保存しない場合は、「No」を選択します。本サーバが再起動されます。

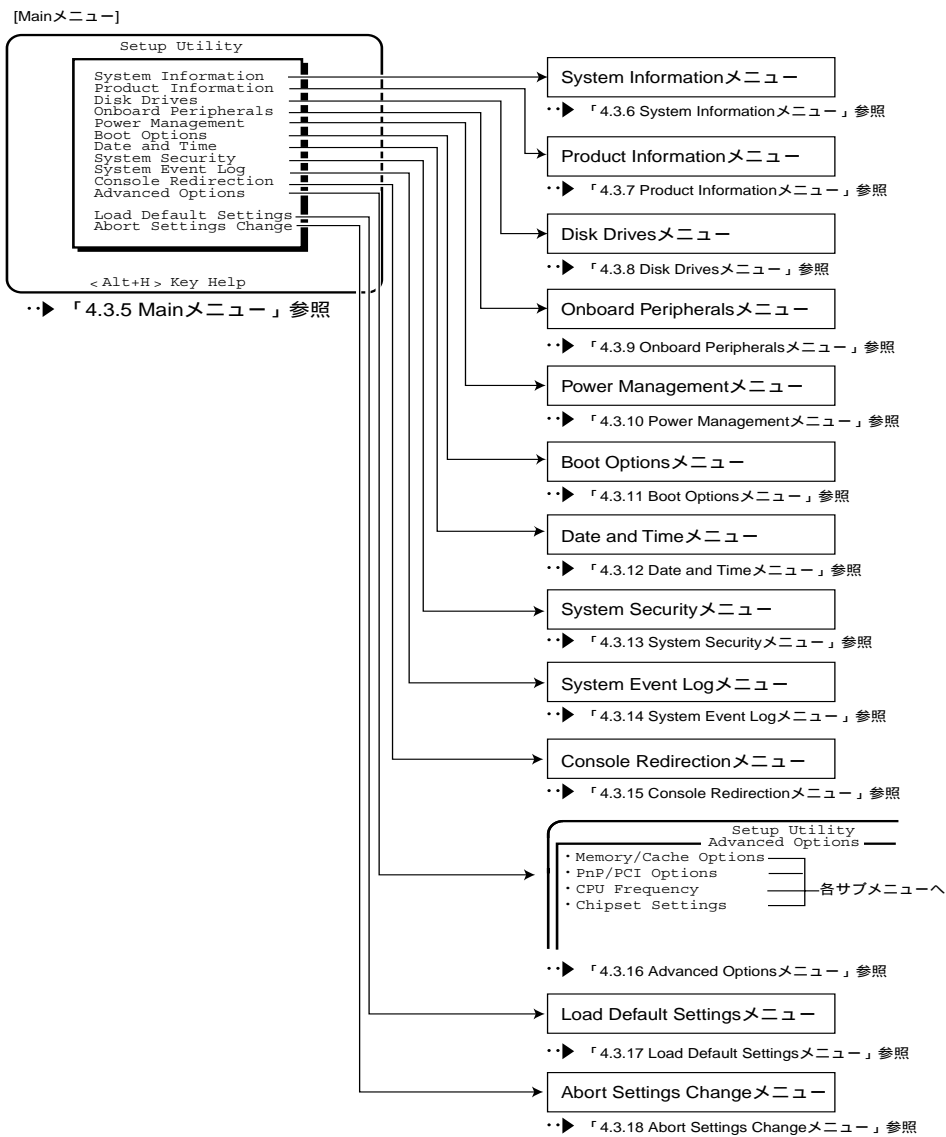
4.3.3 BIOS セットアップユーティリティでのキー操作

BIOS セットアップユーティリティの設定時に使用するキーの役割は、以下のとおりです。

[F1]	ヘルプを表示します。
[Esc]	現在の操作を中止し、前の操作にもどります。
[Enter]	設定項目を選択します。「Press Enter」となっている項目は、サブメニューがあることを示します。この項目のサブメニューを表示します。サブメニューが表示された状態で [Esc] キーを押すと、メニュー画面に戻ります。
[] []	設定する項目にカーソルを移動します。
[] []	メニューを切り替えます。
[PageUp] [PageDown]	次画面または前画面に移ります。
[Home]	メニューの先頭に移動します。
[End]	メニューの最後に移動します。

4.3.4 メニューと項目一覧

BIOS セットアップユーティリティは、11 個のメニューから構成されています。
ここでは、メニューと設定項目を一覧で説明します。



以下に、BIOS セットアップユーティリティで変更することができるメニュー項目を一覧で説明します。これらのメニュー項目以外は、工場出荷設定値を変更しないでください。

各項目の詳細は、次の節以降を参照してください。

メニュー名	説明
変更可能な項目名	
System Information	本サーバの現在のハードウェア設定情報を表示します。
なし	-
Product Information	本サーバの製品情報を表示します。
なし	-
Disk Drives	ドライブに関する設定をします。
なし	-
Onboard Peripherals	ベースボード上の装置の設定を行います。
Serial Port 1	シリアルポート 1 の I/O アドレスと IRQ を設定します。
Base Address	シリアルポート 1 の I/O ポートアドレスを設定します。
IRQ	シリアルポート 1 の IRQ を設定します。
Serial Port 2	シリアルポート 2 の I/O アドレスと IRQ を設定します。
Base Address	シリアルポート 2 の I/O ポートアドレスを設定します。
IRQ	シリアルポート 2 の IRQ を設定します。
Parallel Port	パラレルポートの I/O アドレスと IRQ を設定します。
Base Address	パラレルポートの I/O アドレスを設定します。
IRQ	パラレルポートの IRQ を設定します。
USB Host Controller	USB コントローラを使用するかどうかを設定します。
Onboard SCSI	オンボードの SCSI コントローラを有効にするかどうかを設定します。
Onboard Ethernet Chip	オンボードの LAN を有効にするかどうかを設定します。
Power Management	省電力モードに関する設定をします。
Restart AC/Power Failure	復元時の本サーバの電源状態を設定します。
Boot Options	電源投入時の設定を行います。
Boot Sequence	どのデバイスから起動するかの順番を設定します。
Release ALL Blocked Memory	BIOS が保持している異常 RAM モジュールの情報をクリアにするかどうかを設定します。RAM モジュール異常検出による RAM モジュール交換時に「Enabled」に設定してください。
Boot from LANDesk(R) Service Agent	ネットワークドライブから起動するかどうかを設定します。
Configuration Table	本サーバの POST 後、構成表を表示するかどうかを設定します。Main メニューで [Alt] + [F4] キーを押すと表示されます。

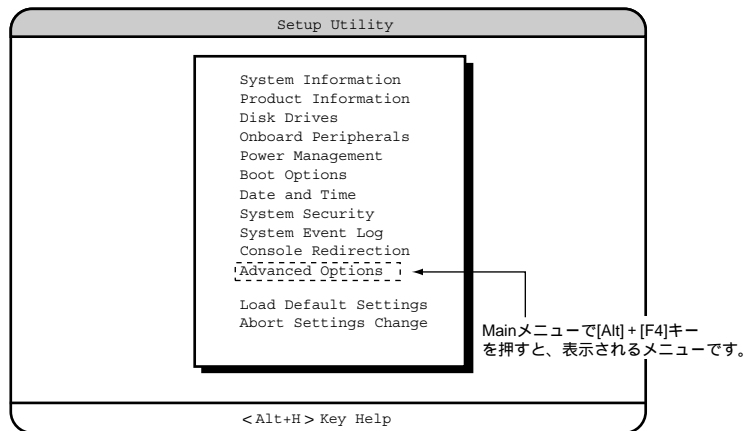
メニュー名	説明
変更可能な項目名	
Date and Time	日時を設定します。
Date	曜日 / 月 / 日 / 西暦を設定します。
Time	時 : 分 : 秒を設定します。時間は 24 時間形式で入力します。
System Security	セキュリティに関する設定をします。
Supervisor Password	特定の人だけがシステム起動および BIOS 設定を変更できるようにパスワードを設定します。
Password Request	パスワード設定時の操作方法を設定します。
User Password	特定の人だけがシステム起動および BIOS 設定を参照できるようにパスワードを設定します。
Processor Serial Number	プロセッサシリアル番号参照機能を有効にするかどうかを設定します。
System Event Log	イベントに関する設定を行います。
Clear Event Log	イベントログの消去を行うかどうかを設定します。
Console Redirection	コンソールリダイレクションの設定をします。
Console Redirection	コンソールリダイレクションを有効にするかどうかを設定します。
Communication Port	コンソールリダイレクションに使用するシリアルポートを設定します。
COM Port Baud Rate	コンソールリダイレクションで使用するボーレートを設定します。
Advanced Options	ベースボードに関する各種設定をします。それぞれサブメニューがあります。
Memory /Cache Options	メモリに関する設定をします。
なし	-
PnP/PCI Options	オンボード上の PCI バスに関する設定をします。
PCI IRQ Setting	オンボード SCSI / オンボード LAN や PCI カードの割り込みレベル (IRQ) を表示する項目です。
PCI Slot 1	PCI カードを取り付けるときに、個別に割り込みレベルを設定します。
PCI Slot 2	
PCI Slot 3	
PCI Slot 4	
PCI Slot 5	
PCI Slot 6	
Onboard VGA	サーバ本体の VGA の割り込みレベルを設定します。
Onboard LAN	サーバ本体の LAN の割り込みレベルを設定します。
Onboard SCSI	サーバ本体の SCSI コントローラの割り込みレベルを設定します。
USB Host Controller	USB コントローラの割り込みレベルを設定します。
Reset Resource Assignments	PCI カードに割り当てたシステム資源をリセットするかどうかを設定します。

メニュー名		説明
変更可能な項目名		
	CPU Frequency	CPU に関する設定をします。
	なし	-
	Chipset Settings	ベースボード上のチップセットに関する詳細情報を設定します。
	なし	-

4.3.5 Main メニュー

ここでは、Main メニューについて説明します。

BIOS セットアップユーティリティを起動すると、最初にこのメニューが表示されます。



[] キーを押して、設定を変更したいメニューにカーソルを合わせ、[Enter] キーを押すと、メニューが表示されます。

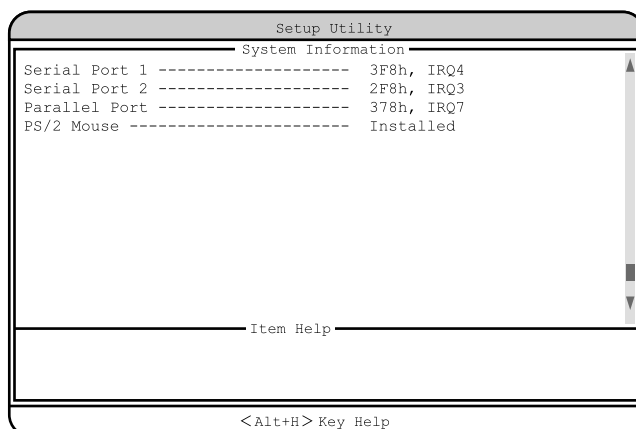
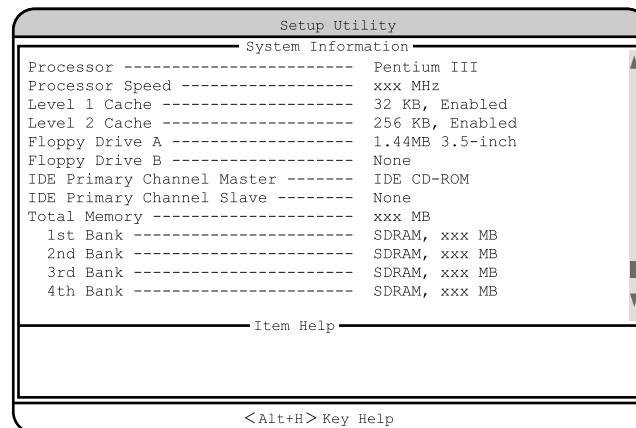
4.3.6 System Information メニュー

System Information メニューは、本サーバの現在のハードウェア設定情報を表示します。

設定を変更することはできません。

各メニューの詳細のマークは、次の意味です。

- : 項目名
- : 項目のサブメニュー
- : 設定内容



Processor

システムに搭載しているプロセッサ名を表示します。

Processor Speed

プロセッサ動作周波数を表示します。

Level 1 Cache

内部キャッシュ (L1) 搭載サイズを表示します。

Level 2 Cache

外部キャッシュ（L2）搭載サイズを表示します。

Floppy Drive A / Floppy Drive B

フロッピーディスクドライブのタイプ（記録密度とドライブサイズ）を表示します。

IDE Primary Channel Master

プライマリIDEのマスターに取り付けられている内蔵ドライブのタイプを表示します。

IDE Primary Channel Slave

プライマリIDEのスレーブに取り付けられている内蔵ドライブのタイプを表示します。

Total Memory

本サーバが利用できるメモリサイズを表示します。

1st Bank / 2nd Bank / 3rd Bank / 4th Bank

本サーバが搭載しているメモリ種別と容量を表示します。

Serial Port 1

シリアルポート1の設定情報（I/Oポートアドレス、IRQ）を表示します。

Serial Port 2

シリアルポート2の設定情報（I/Oポートアドレス、IRQ）を表示します。

Parallel Port

パラレルポートの設定情報（I/Oポートアドレス、IRQ）を表示します。

PS/2 Mouse

マウスの接続状態を表示します。

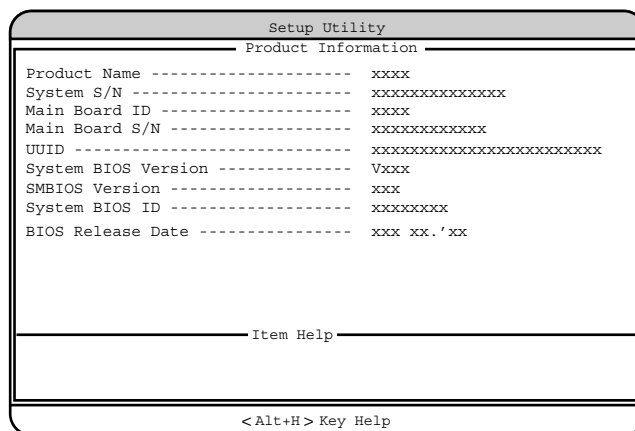
4.3.7 Product Information メニュー

Product Information メニューは、本サーバの製品情報を表示します。

設定を変更することはできません。

各メニューの詳細のマークは、次の意味です。

- : 項目名
- : 項目のサブメニュー
- : 設定内容



Product Name

製品名を表示します。

System S/N

シリアルナンバーを表示します。本サーバでは無効な情報です。

Main Board ID

ベースボードの ID を表示します。

Main Board S/N

ベースボードのシリアルナンバーを表示します。

UUID

UUID (Universally Unique Identifier) を表示します。

System BIOS Version

BIOS の版数を表示します。

SMBIOS Version

SMBIOS の版数を表示します。

System BIOS ID

BIOS の識別 ID を表示します。

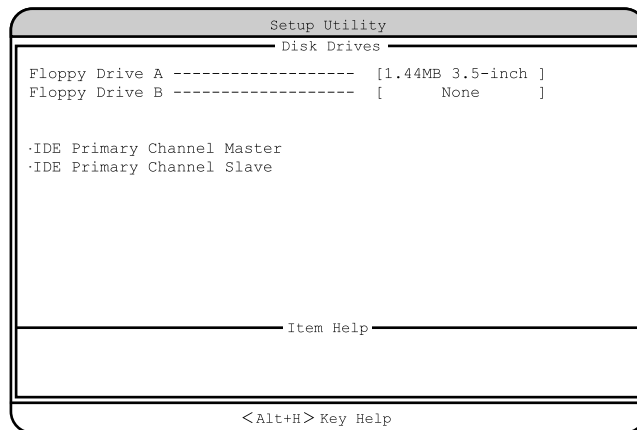
BIOS Release Date

BIOS の作成日を表示します。

4.3.8 Disk Drives メニュー

Disk Drives メニューは、ドライブに関する設定を行うメニューです。
各メニューの詳細のマークは、次の意味です。

- : 項目名
- : 項目のサブメニュー
- : 設定内容



Floppy Drive A (変更禁止)

フロッピーディスクドライブのタイプ (記録密度とドライブサイズ) を設定します。設定値は、以下のとおりです。

- None
- 360KB 5.25-inch
- 1.2MB 5.25-inch
- 720KB 3.5-inch
- 1.44MB 3.5-inch (工場出荷設定値)
- 2.88MB 3.5-inch

Floppy Drive B (変更禁止)

フロッピーディスクドライブのタイプ (記録密度とドライブサイズ) を設定します。設定値は、以下のとおりです。

- None (工場出荷設定値)
- 360KB 5.25-inch
- 1.2MB 5.25-inch
- 720KB 3.5-inch
- 1.44MB 3.5-inch
- 2.88MB 3.5-inch

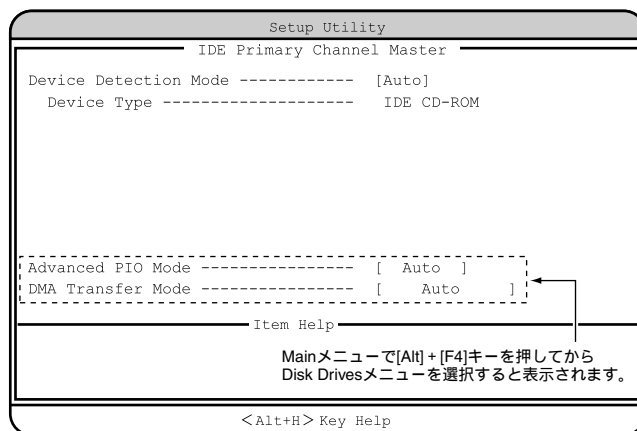
IDE Primary Channel Master (変更禁止)

IDE Primary Channel Slave (変更禁止)

IDE 規格のドライブ装置の各種設定を行います。

サブメニューを使って、プライマリ IDE コネクタとセカンダリ IDE コネクタに取り付けたマスターとスレーブのハードディスクなどのタイプ (容量やシリンダ数など) を設定します。

カーソルを合わせて [Enter] キーを押すと、サブメニューの画面が表示されます。



Device Detection Mode (変更禁止)

IDE ドライブのタイプを設定します。

- Auto (工場出荷設定値)
本サーバが自動的に IDE ドライブのタイプを設定します。
- None
IDE ドライブを認識していない状態にします。
- User
User を選択すると、シリンダ数などの情報を設定できる状態になります。
Cylinder : シリンダ数を設定します。
Head : ヘッド数を設定します。
Sector : セクタ容量を設定します。
Size : 記憶容量を設定します。

Device Type (変更禁止)

IDE ドライブのタイプを表示します。

Hard Disk LBA Mode (変更禁止)

LBA (Linear Block Addressing) 転送を行うかどうかを設定します。
このメニューは、IDE CD-ROM 搭載時には表示されません。

- Auto (工場出荷設定値)
LBA 転送を行います。
- Disabled
LBA 転送を行いません。

Hard Disk Block Mode (変更禁止)

ブロック転送 (データを複数セクタ分まとめて転送すること) を行うかどうかを設定します。

このメニューは、IDE CD-ROM 搭載時には表示されません。

- Auto (工場出荷設定値)
ブロック転送を行います。
- Disabled
ブロック転送を行いません。

Hard Disk 32 Bit Access (変更禁止)

ハードディスクコントローラに 32 ビットでアクセスできるように設定します。

このメニューは、IDE CD-ROM 搭載時には表示されません。

- Enabled (工場出荷設定値)
ハードディスクコントローラに 32 ビットでアクセスするときに選択します。
- Disabled
ハードディスクコントローラに 32 ビットでアクセスしないときに選択します。

Advanced PIO Mode (変更禁止)

PIO(programmed I/O) モードのうち、最も高速な PIO モードに自動設定します。

- Auto (工場出荷設定値)
高速な PIO モードに自動設定します。
- Mode0 / Mode1 / Mode2 / Mode3 / Mode4
PIO モードを設定します (Mode0 ~ Mode4)。

DMA Transfer Mode (変更禁止)

CD-ROM ドライブユニットで DMA(Direct Memory Access) 転送モードにするかどうかを設定します。

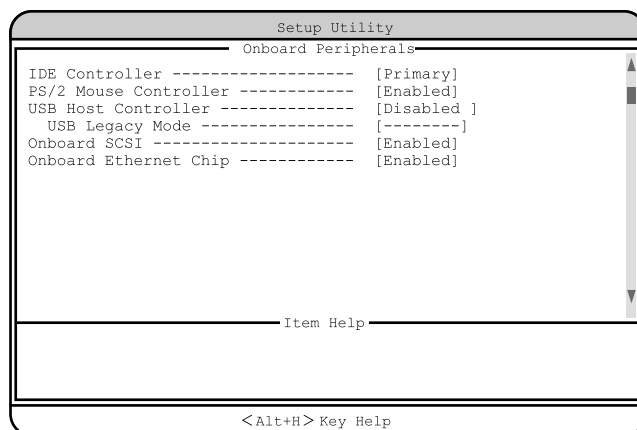
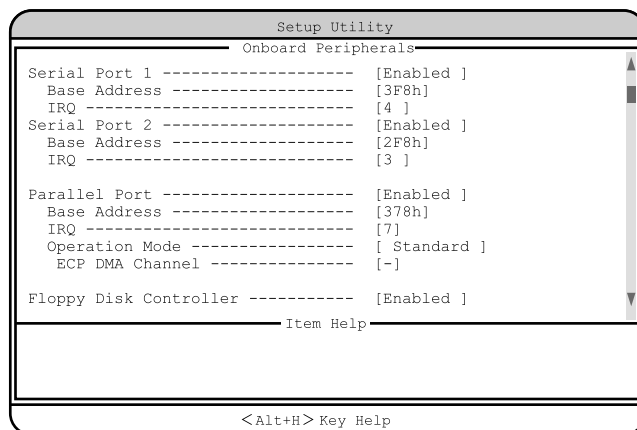
- Auto (工場出荷設定値)
DMA 転送を自動的に認識します。
- Disabled
DMA 転送を使用しません。
- Multiword Mode 0 / 1 / 2
複数のデータを連続的に一括で DMA 転送します。
- Ultra Mode 0 / 1 / 2 / 3 / 4
Ultra DMA モードで転送します。

4.3.9 Onboard Peripherals メニュー

Onboard Peripherals メニューは、ベースボード上の装置（シリアルポート、パラレルポート、フロッピーディスクコントローラ、IDE コントローラ、SCSI コントローラ、マウス、USB、LAN）の設定を行うメニューです。

各メニューの詳細のマークは、次の意味です。

- : 項目名
- : 項目のサブメニュー
- : 設定内容



Serial Port 1

シリアルポート 1 の I/O アドレスと IRQ(割り込みレベル) を設定します。

- Enabled (工場出荷設定値)
設定を有効にします。Base Address/IRQ を設定してください。
- Disabled
設定を無効にします。

Base Address

シリアルポート 1 の I/O ポートアドレスを設定します。

- 2E8h
- 2F8h
- 3E8h
- 3F8h (工場出荷設定値)

IRQ

シリアルポート 1 の IRQ を設定します。

- 4 (工場出荷設定値)
- 11

Serial Port 2

シリアルポート 2 の I/O ポートアドレスと IRQ を設定します。

- Enabled (工場出荷設定値)
設定を有効にします。Base Address/IRQ を設定してください。
- Disabled
設定を無効にします。

Base Address

シリアルポート 2 の I/O ポートアドレスを設定します。

- 2E8h
- 2F8h (工場出荷設定値)
- 3E8h
- 3F8h

IRQ

シリアルポート 2 の IRQ を設定します。

- 3 (工場出荷設定値)
- 10

Parallel Port

パラレルポートの I/O ポートアドレスと IRQ を設定します。

- Enabled (工場出荷設定値)
設定を有効にします。Base Address/IRQ を設定してください。
- Disabled
設定を無効にします。

Base Address

パラレルポートの I/O ポートアドレスを設定します。

- 3BCh
- 378h (工場出荷設定値)
- 278h

IRQ

パラレルポートの IRQ を設定します。

- 5
- 7 (工場出荷設定値)

Operation Mode (変更禁止)

パラレルコネクタに接続する周辺装置の種類を設定します。

- Standard (工場出荷設定値)
出力専用モードを使用する周辺装置を接続します。
- Bi-directional
双方向モードを使用する周辺装置を接続します。
- EPP
EPP 規格の周辺装置を接続します。
- ECP
ECP 規格の周辺装置を接続します。

ECP DMA Channel (変更禁止)

パラレルポートを ECP モードで動作させる場合に、パラレルポートが使用する DMA チャンネルを設定します。Operation Mode を「ECP」に設定した場合のみ設定できます。

- 1
DMA チャンネル 1 を使います。
- 3
DMA チャンネル 3 を使います。
- -- (工場出荷設定値)
DMA チャンネルを使いません。

Floppy Disk Controller (変更禁止)

フロッピーディスクコントローラを使用するかどうかを設定します。

- Enabled (工場出荷設定値)
フロッピーディスクコントローラを使用します。
- Disabled
フロッピーディスクコントローラを使用しません。

IDE Controller (変更禁止)

IDE コントローラを有効にするかどうかを設定します。

- Primary (工場出荷設定値)
プライマリ IDE コントローラだけを有効にします。
- Disabled
無効にします。

PS/2 Mouse Controller (変更禁止)

マウスコネクタに接続したマウスを使用するかどうかを設定します。

- Enabled (工場出荷設定値)
マウスを使用します。
- Disabled
マウスを使用しません。

USB Host Controller

USB コントローラを使用するかどうかを設定します。

OS が、Windows 2000 Server の場合は「Enabled」に設定することで使用できます。

- Enabled
USB コントローラを使用します。
- Disabled (工場出荷設定値)
USB コントローラを使用しません。

USB Legacy Mode (変更禁止)

USB 対応キーボードを MS-DOS 環境のもとで有効にするかどうかを設定します。

なお、USB Host Controller が「Disabled」のときは選択できません。

- Enabled
有効にします。
- Disabled (工場出荷設定値)
無効にします。

Onboard SCSI

オンボードの SCSI コントローラを有効にするかどうかを設定します。

- Enabled (工場出荷設定値)
有効にします。
- Disabled
無効にします。

Onboard Ethernet Chip

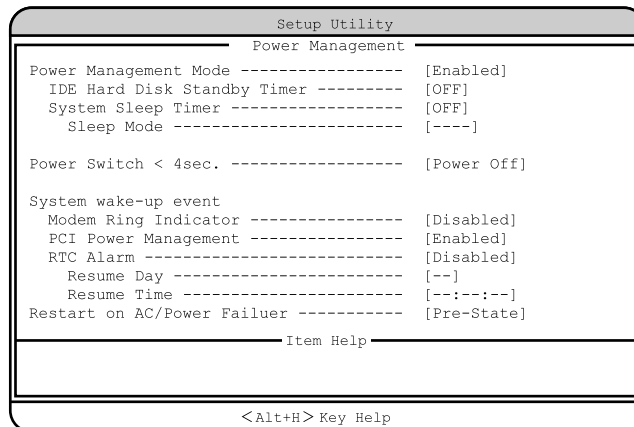
オンボードの LAN を有効にするかどうかを設定します。

- Enabled (工場出荷設定値)
有効にします。
- Disabled
無効にします。

4.3.10 Power Management メニュー

Power Management メニューは、省電力モードに関する設定を行うメニューです。
各メニューの詳細のマークは、次の意味です。

- : 項目名
- : 項目のサブメニュー
- : 設定内容



Power Management Mode (変更禁止)

省電力モードにするかどうかを設定します。

- Disabled
省電力モードにしません。省電力モードに関する設定項目は、灰色の文字で表示され、設定できなくなります。
- Enabled (工場出荷設定値)
省電力モードにします。

IDE Hard Disk Standby Timer (変更禁止)

内蔵ハードディスクを、スタンバイモード (一部の回路を停止させた状態) に移行させるまでの時間を設定します。ハードディスクにアクセスすると、スタンバイモードから通常の状態に数秒で戻ります。

- OFF (工場出荷設定値)
スタンバイモードになりません。
- 1 ~ 15
1 分から 15 分の間で任意の時間を設定します。その時間ハードディスクへのアクセスがないと、ハードディスクがスタンバイモードになります。

System Sleep Timer (変更禁止)

システムをスリープ状態に移行するまでの時間を設定します。

- OFF (工場出荷設定値)
システムスリープ機能を無効にします。
- 2 ~ 120
2 分から 120 分の間で任意の時間を設定します。

Sleep Mode (変更禁止)

システムをスリープ状態に移行するときのモードを設定します。

System Sleep Timer が OFF の場合は、選択できません。

- -- (工場出荷設定値)
System Sleep Timer が「OFF」に設定されているため、選択できない状態になっています。
- Standby
スタンバイモード (VGA オフ) に移行します。
- Suspend
サスペンドモード (VGA オフ / IDE ハードディスクモータオフ / CPU 低電力モード) に移行します。

Power Switch < 4sec. (変更禁止)

電源スイッチによるサスペンド機能を有効にするかどうかを設定します。

- Suspend
電源スイッチを押す時間が 4 秒未満のときは、サスペンドになり、4 秒以上のときは電源が切断されます。
- Power Off (工場出荷設定値)
電源スイッチを押す時間の長さに関係なく、電源スイッチを押すと電源が切断されます。

System wake-up event

省電力状態からの復帰方法を設定します。

Modem Ring Indicator (変更禁止)

モデムを使った電話回線からの着信で、省電力状態から復帰させるかどうかを設定します。

- Enabled
省電力状態から復帰します。
- Disabled (工場出荷設定値)
省電力状態から復帰しません。

PCI Power Management (変更禁止)

Wakeup on LAN 機能を有効にするかどうかを設定します。

- Enabled (工場出荷設定値)
Wakeup on LAN 機能を有効にします。
- Disabled
Wakeup on LAN 機能を無効にします。

RTC Alarm (変更禁止)

省電力状態からの復帰時間を設定します。

- Time
「Resume Time」で設定した時間に復帰します。
- Date/Time
「Resume Day」で設定した日付に復帰します。
- Disabled (工場出荷設定値)
省電力状態から復帰させません。

Resume Day

復帰する日付を設定します。「RTC Alarm」で「Date/Time」を設定したときに有効になります。

Resume Time

復帰する時間を設定します。「RTC Alarm」で「Time」または「Date/Time」を設定したときに有効になります。

Restart on AC/Power Failure

電源供給復電時の設定を行う項目です。

Windows 2000 Server など、シャットダウン後に電源が切断される OS で、UPS のスケジュール運転を行う場合は、「Enabled」に設定してください。

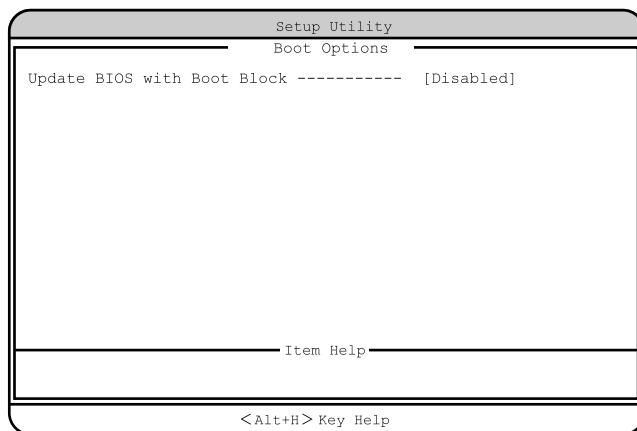
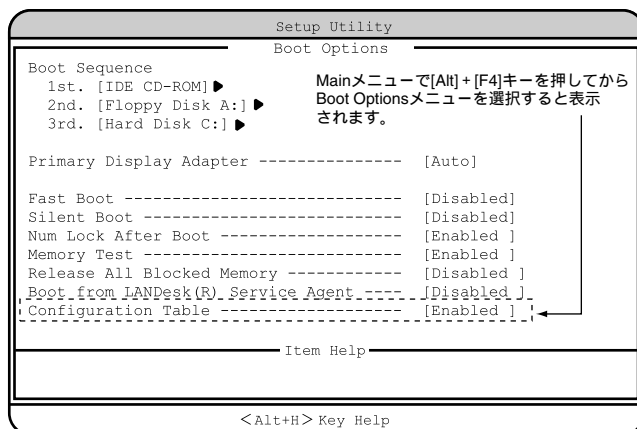
- Pre-State (工場出荷設定値)
電源復電時、電源切断前の状態に戻します。
電源が入っていた場合は、復電時、システムを起動します。
電源が入っていなかった場合は、復電時、システムを起動しません。
- Enabled
電源復電時、常にシステムを起動します。
- Disabled
電源復電時、常にシステムを起動しません。

4.3.11 Boot Options メニュー

Boot Options メニューは、電源投入時の設定を行うメニューです。

各メニューの詳細のマークは、次の意味です。

- : 項目名
- : 項目のサブメニュー
- : 設定内容



Boot Sequence

どのデバイスから起動するか順番を 1st. 2nd. 3rd. 4th. の順に設定します。
各項目はカーソルを合わせて、上下矢印キーで設定します。
各項目で右矢印キーを押すと、サブメニューが表示されます。
各項目について以下に説明します。

IDE CD-ROM

CD-ROM ドライブから起動します。

- IDE CD-ROM (工場出荷時設定)
CD-ROM ドライブから起動します。
- Skip
CD-ROM ドライブをスキップします。

Floppy Disk A:

フロッピーディスクドライブから起動します。

- Floppy Disk A: (工場出荷時設定)
フロッピーディスクドライブから起動します。
- Skip
フロッピーディスクドライブをスキップします。

Hard Disk C:

ハードディスクドライブから起動します。

起動するハードディスクの順番を 1st. 2nd. の順で設定します。

本サーバでは以下のように設定してください。

- 1st. : Other
起動するハードディスクの順番を 1st. 2nd. の順で設定します。
本サーバでは以下のように設定してください。
[ディスクレスタイプ / OS インストールタイプ]
 - 1st. : On Board Adaptec AIC-7899 SCSI
 - 2nd. : Legacy PCI SCSI
- [アレイタイプ]
 - 1st. : Legacy PCI SCSI
 - 2nd. : On Board Adaptec AIC-7899 SCSI
- 2nd. : E-IDE

Intel UNDI, PXE-2.0 (build 071)

PXE から起動します。

Boot from LANDesk(R) Service Agentga の値が「Enabled」のまたは
Onboard Ethernet Chip の値が「Enabled」の場合は、この項目は表示され
ません。

- Intel UNDI, PXE-2.0 (build 071) (工場出荷時設定)
PXE から起動します。
- Skip
PXE をスキップします。

Primary Display Adapter (変更禁止)

拡張 VGA カードを使用するか、オンボード VGA を使用するかを設定します。

- Auto (工場出荷時設定)
拡張 VGA カード オンボード VGA の順で自動認識します。
- Onboard
オンボード VGA を使用します。

Fast Boot (変更禁止)

POST(Power-On Self Test) を省略して起動するかどうかを設定します。

- Auto
POST の一部の機能を省略して起動します。
- Disabled (工場出荷時設定)
POST を省略せずに起動します。

Silent Boot (変更禁止)

本サーバでは無効の機能です。
いずれの設定値を選んでも POST の途中経過を画面に表示します。

- Enabled
- Disabled (工場出荷時設定)

Num Lock After Boot (変更禁止)

起動したあとに、キーボードを Num Lock 状態 (テンキーから数字などを入力できる状態) にするかどうかを設定します。

- Enabled (工場出荷設定値)
キーボードを Num Lock 状態にします。
- Disabled
キーボードを Num Lock 状態にしません。

Memory Test (変更禁止)

POST で、メモリテストを行うかどうかを設定します。

- Enabled (工場出荷設定値)
メモリテストを行います。
- Disabled
メモリテストを行いません。

Release All Blocked Memory

BIOS が保持している異常 RAM モジュールの情報をクリアするかどうかを設定します。RAM モジュールが異常の場合、POST 時にその旨のメッセージが表示されます。RAM モジュール異常検出による RAM モジュール交換後に、「Enabled」を設定してください。

- Enabled
情報をクリアします。設定後、次回起動時にクリアされ、この設定値は [Disabled] に戻ります。

-
- Disabled (工場出荷設定値)
情報をクリアしません。

Boot from LANDesk(R) Service Agent

起動時に、ネットワークドライブから起動するかどうかを設定します。

- Enabled
PXE を使用して、ネットワークドライブから起動します。
- Disabled (工場出荷設定値)
ネットワークドライブからの起動を行いません。

Configuration Table

本サーバの POST 後、構成表を表示するかどうかを設定します。

Main メニューで [Alt] + [F4] キーを押してから、Boot Options メニューを選択すると表示されます。

- Enabled (工場出荷設定値)
構成表を表示します。
- Disabled
構成表を表示しません。

Update BIOS with Boot Block (変更禁止)

本サーバではサポートしていない機能です。

- Enabled
- Disabled (工場出荷時設定)

4.3.12 Date and Time メニュー

Date and Time メニューは、日時を設定するメニューです。

各メニューの詳細のマークは、次の意味です。

- : 項目名
- : 項目のサブメニュー
- : 設定内容

The screenshot shows a BIOS menu titled "Setup Utility" with a sub-header "Date and Time". The menu contains two items: "Date" and "Time". The "Date" item is followed by a dashed line and the format "[XXX XXX XX,XXXX]". The "Time" item is followed by a dashed line and the format "[HH:MM:SS]". Below the menu items is a section labeled "Item Help" with a blank space for help text. At the bottom of the screen, there is a prompt "<Alt+H> Key Help".

Date

曜日 / 月 / 日 / 西暦を設定します。

Time

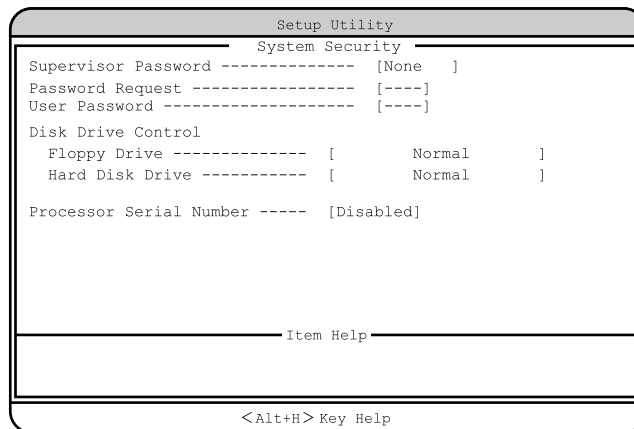
時 : 分 : 秒を設定します。時間は 24 時間形式で入力します。

4.3.13 System Security メニュー

System Security メニューは、セキュリティに関する設定をします。

各メニューの詳細のマークは、次の意味です。

- : 項目名
- : 項目のサブメニュー
- : 設定内容



Supervisor Password

スーパーバイザパスワードは、特定の人だけがシステム起動、および BIOS セットアップユーティリティで設定変更できるようにパスワードを設定します。スーパーバイザパスワードを設定すると、システム起動、および BIOS セットアップを始めるときにパスワードの入力を求められます。

- None (工場出荷設定値)
パスワードを設定しません。
- Present
パスワードを設定します。選択すると、パスワード入力用の画面が表示されます。

Password Request

パスワード設定時の操作方法を設定します。

- OS
キーボードをロックします。
システム起動後、パスワードを入力するとキー入力が有効となります。
- POST
BIOS セットアップエントリ時、または POST の途中でパスワード入力を要求します。
- --- (工場出荷設定値)
Supervisor Password が選択されているときは、灰色表示になります。

User Password

ユーザパスワードは、特定の人だけがシステム起動、および BIOS セットアップユーティリティを参照できるようにパスワードを設定します。ユーザパスワードを設定すると、システム起動、および BIOS セットアップを始めるときにパスワードの入力を求められます。

- None
パスワードを設定しません。
- Present
パスワードを設定します。選択すると、パスワード入力用の画面が表示されます。
- --- (工場出荷設定値)
Supervisor Password が選択されているときは、灰色表示になります。

Disk Drive Control (変更禁止)

フロッピーディスク、ハードディスクへの書き込みを禁止します。

Floppy Drive (変更禁止)

フロッピーディスクへの書き込みを禁止します。

- Normal (工場出荷設定値)
通常どおり書き込みや読み込みができます。
- Write Protect All Sectors
すべてのセクタへの書き込みを禁止します。
- Write Protect Boot Sector
ブートセクタへの書き込みを禁止します。

Hard Disk Drive (変更禁止)

ハードディスクへの書き込みを禁止します。

- Normal (工場出荷設定値)
通常どおり書き込みや読み込みができます。
- Write Protect All Sectors
すべてのセクタへの書き込みを禁止します。
- Write Protect Boot Sector
ブートセクタへの書き込みを禁止します。

Processor Serial Number

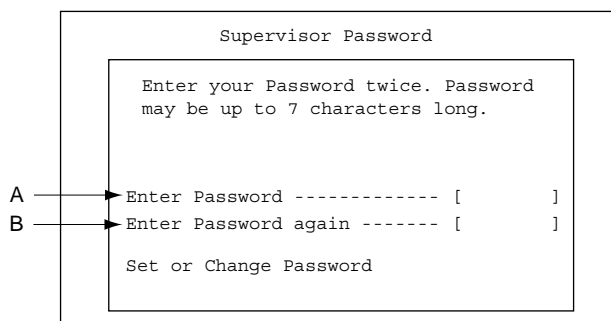
プロセッサシリアル番号参照機能を有効にするかどうかを設定します。当機能を有効にすると、ネットワーク経由で外部から本サーバ搭載のプロセッサシリアル番号を参照できるようになります。プロセッサシリアル番号を外部に通知する必要がない場合は有効にしないでください。

- Enabled
プロセッサシリアル番号参照機能を有効にします。
- Disabled (工場出荷設定値)
プロセッサシリアル番号参照機能を無効にします。

Supervisor Password および User Password のパスワードの設定方法

ユーザパスワードを設定する場合には、同時にスーパーバイザパスワードを設定する必要があります。

- 1 [**Alt**] キーでスーパーバイザパスワード、またはユーザパスワードにカーソルを合わせ、[**Alt**] キーを押します。
パスワード入力用の画面が表示されます。



- 2 A に 7 桁までのパスワードを入力します。
入力できる文字種はアルファベットと数字です。入力した文字は表示されず、ブロックのみが表示されます。
- 3 パスワードを入力したら [Enter] キーを押します。
パスワードの設定を中止するときは、[Esc] キーを押します。
- 4 B に手順 2 で入力したパスワードを再び入力して [Enter] キーを押します。
Set or Change Password でもう一度 [Enter] キーを押すと、設定値が Present になります。再入力したパスワードが手順 2 で入力したものと一致しない場合は、再び手順 2 と同じ画面が表示されます。再びパスワードを入力してください。
- 5 セットアップを終了し電源を切ってから、ジャンパセッティングを行います。
ベースボードのジャンパ設定 JP8 を 2-3 に変更します。



警告

ジャンパセッティングを変更する場合は、サーバ本体および接続されている装置の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに変更してください。感電の原因となります。

パスワードを BIOS セットアップで設定しても、ジャンパセッティングを変更するまでは、有効にはなりません。



ヘルプ

パスワードを忘れてしまい、BIOS セットアップや起動ができなくなったら、JP8 を 1-2 に戻してください。パスワードチェックが解除されます。



ポイント

誤ったパスワードを 3 回入力すると、システムが停止します。その場合は、本サーバの電源をいったん切ってから、再び電源を入れ、その後正しいパスワードを再入力してください。

Supervisor Password / User Password の削除 / 変更方法

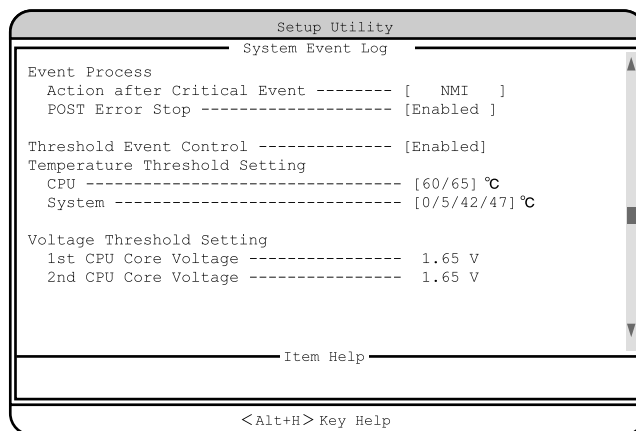
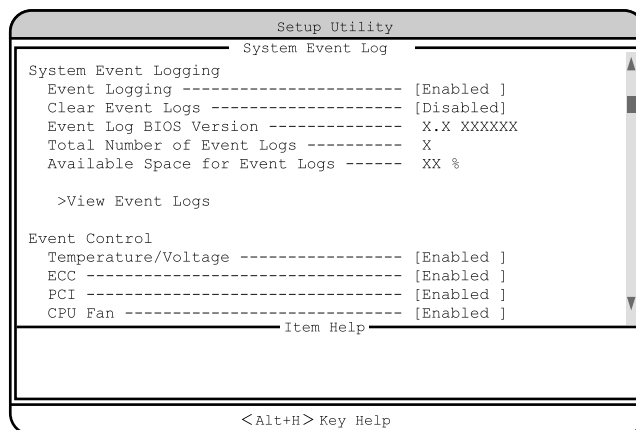
スーパーバイザパスワードの削除や変更は、System Security メニューで行います。パスワード入力用の画面で削除するには、[] [] キーで設定値を None に戻します。その後、BIOS セットアップを終了し、JP8 を 1-2 に戻すか、または JP8 が 1-2 に設定されていることを確認します。2-3 のままでは、BIOS セットアップを始めることはできません。

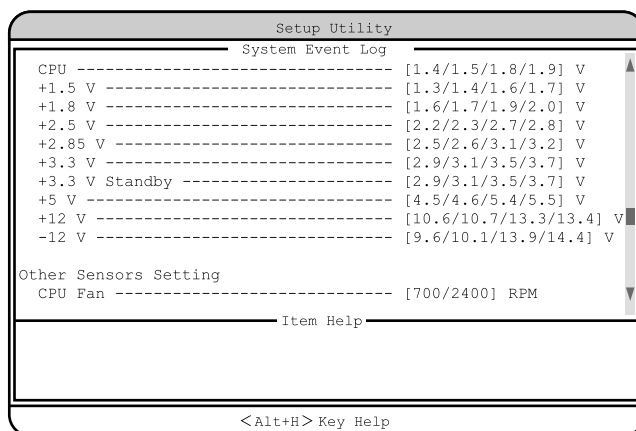
変更するには、[] [] キーで設定値を None に戻した後、再び [] [] キーでパスワード入力用の画面を表示させて、新しいパスワードを入力します。

4.3.14 System Event Log メニュー

System Event Log メニューは、イベントに関する設定を行うメニューです。
各メニューの詳細のマークは、次の意味です。

- : 項目名
- : 項目のサブメニュー
- : 設定内容





System Event Logging

イベントログに関する設定を行います。

Event Logging (変更禁止)

イベントログ機能を有効とするか無効とするかを指定します。

- Enabled (工場出荷設定値)
イベントログを行います。
- Disabled
イベントログを行いません。

Clear Event Logs

イベントログの消去を行うかどうかを設定します。

- Enabled
イベントログの消去を行います。次回起動時にクリアされ、[Disabled]に変更されます。
- Disabled (工場出荷設定値)
イベントログの消去を行いません。

Event Log BIOS Version

RAS の BIOS 版数を表示します。

Total Number of Event Logs

格納済みのイベントログ数を表示します。

Available Space for Event Logs

残りのイベントログ格納領域の割合を%で表示します。

View Event Logs

イベントログビューワを表示します。内容については、「8.3 イベントログ」(303 ページ)を参照してください。

Event Control

監視する項目を設定します。

Temperature/Voltage (変更禁止)

温度 / 電圧の監視を行うかどうかを設定します。

- Enabled (工場出荷設定値)
監視します。
- Disabled
監視しません。

ECC (変更禁止)

ECC メモリの監視を行うかどうかを設定します。

- Enabled (工場出荷設定値)
監視します。
- Disabled
監視しません。

PCI (変更禁止)

PCI デバイスと PCI バスの監視を行うかどうかを設定します。

- Enabled (工場出荷設定値)
監視します。
- Disabled
監視しません。

CPU Fan (変更禁止)

CPU ファンの監視を行うかどうかを設定します。

- Enabled (工場出荷設定値)
監視します。
- Disabled
監視しません。

Event Process

重大なイベントが発生したときの動作を設定します。

Action after Critical Event (変更禁止)

クリティカルイベント (重大なシステムエラー) が発生したときの動作を設定します。

- NMI (工場出荷設定値)
MMI メッセージを表示後、システムを停止します。
- Reset
システムをリセット後、再起動します。
- Power Cycle
電源切断後、再起動します。

Post Error Stop (変更禁止)

POST 中にエラーを検出した後にストップするかどうかを設定します。

- Enabled (工場出荷設定値)
エラーを検出したら POST を停止します。
- Disabled
エラーを検出しても POST を停止しません。

Threshold Event Control (変更禁止)

CPU およびシステムの温度 / 電圧のイベント監視方法を設定します。

- Enabled (工場出荷設定値)
監視項目に異常が発生したときに、1 回だけイベントログを保存します。
- Disabled
監視項目に異常が発生するごとにイベントログを保存します。

Temperature Threshold Setting (変更禁止)

CPU およびシステムの警告温度 / 危険温度を設定します。

CPU

CPU の温度異常を通知する温度を設定します。

- 60 (40 ~ 65)
CPU の警告温度 (上限) を 40 ~ 65 の間で設定します。
工場出荷設定値は 60 です。
- 65 (55 ~ 80)
CPU の危険温度 (上限) を 55 ~ 80 の間で設定します。
工場出荷設定値は 65 です。

System

ベースボード上の危険状態を通知する温度を設定します。

- 0 (0 ~ 14)
ベースボード上の危険温度 (下限) を 0 ~ 14 の間で設定します。
工場出荷設定値は 0 です。
- 5 (2 ~ 15)
ベースボード上の警告温度 (下限) を 2 ~ 15 の間で設定します。
工場出荷設定値は 5 です。
- 42 (35 ~ 55)
ベースボード上の警告温度 (上限) を 35 ~ 55 の間で設定します。
工場出荷設定値は 42 です。
- 47 (40 ~ 70)
ベースボード上の危険温度 (上限) を 40 ~ 70 の間で設定します。
工場出荷設定値は 47 です。

Voltage Threshold Setting (変更禁止)

CPU およびシステムの危険電圧を危険 (下限) / 警告 (下限) / 警告 (上限) / 危険 (上限) で設定します。

1st CPU Core Voltage

1st CPU の電圧を表示します。

2nd CPU Core Voltage

2nd CPU の電圧を表示します。

項目	危険 (下限)	警告 (下限)	警告 (上限)	危険 (上限)
CPU	1.4	1.5	1.8	1.9
+1.5V	1.3	1.4	1.6	1.7
+1.8V	1.6	1.7	1.9	2.0
+2.5V	2.2	2.3	2.7	2.8
+2.85V	2.5	2.6	3.1	3.2
+3.3V	2.9	3.1	3.5	3.7
+3.3V Standby	2.9	3.1	3.5	3.7
+5V	4.5	4.6	5.4	5.5
+12V	10.6	10.7	13.3	13.4
-12V	9.6	10.1	13.9	14.4

Other Sensors Setting (変更禁止)

CPU Fan

CPU ファンの異常を知らせる回転数を設定します。

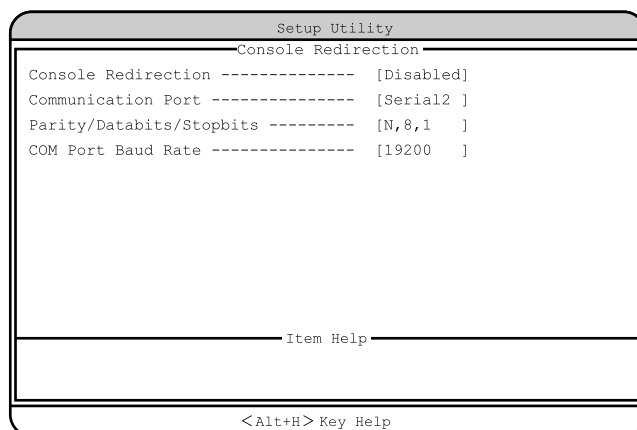
- 700 (700 ~ 2400) RPM
CPU ファンの危険回転数を設定します。
工場出荷設定値は 700RPM です。
- 2400 (1000 ~ 3000) RPM
CPU ファンの警告回転数を設定します。
工場出荷設定値は 2400RPM です。

4.3.15 Console Redirection メニュー

Console Redirection メニューは、コンソールリダイレクションの設定を行うメニューです。

各メニューの詳細のマークは、次の意味です。

- : 項目名
- : 項目のサブメニュー
- : 設定内容



Console Redirection

コンソールリダイレクションを有効にするかどうかを設定します。

- Enabled
コンソールリダイレクションを有効にします。
- Disabled (工場出荷設定値)
コンソールリダイレクションを無効にします。

Communication Port

コンソールリダイレクションに使用するシリアルポートを設定します。

- Serial 1
シリアルポート 1 に設定します。
- Serial 2 (工場出荷設定値)
シリアルポート 2 に設定します。

Parity/Databits/Stopbits

- N,8,1

COM Port Baud Rate

コンソールリダイレクションを使用している場合、使用するボーレートを設定します。

- 9600
- 19200 (工場出荷設定値)

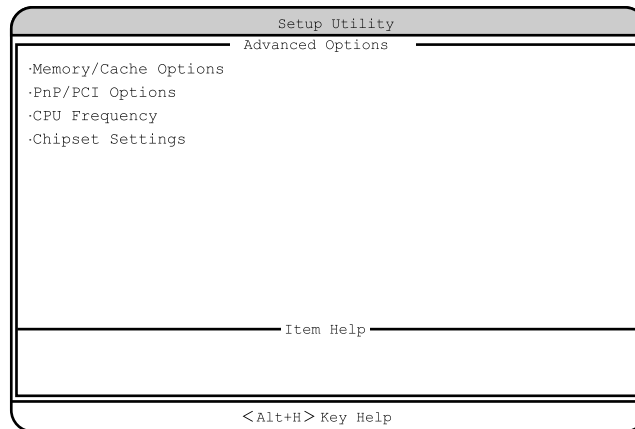
4.3.16 Advanced Options メニュー

Advanced Options メニューは 4 つのメニューで構成されています。

このメニューは、Main メニューで [Alt] + [F4] キーを押すと表示されます。

各メニューの詳細のマークは、次の意味です。

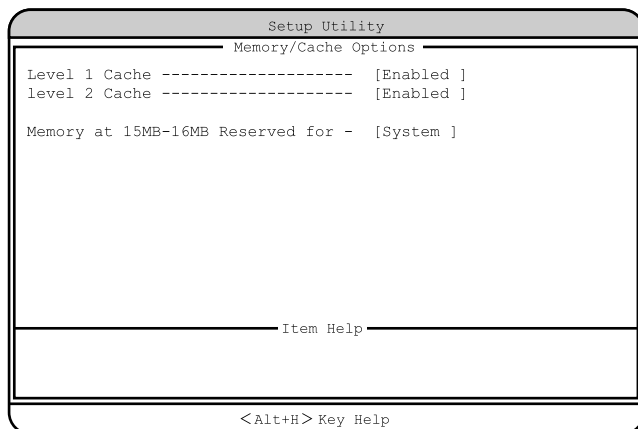
- ： 項目名
- ： 項目のサブメニュー
- ： 設定内容



各メニューを選択すると、それぞれのサブメニュー画面が表示されます。

Memory/Cache Options メニュー

Memory/Cache Options メニューは、メモリに関する設定をします。



Level 1 Cache (変更禁止)

システムの内部キャッシュ (L1) メモリの設定をします。

- Enabled (工場出荷設定値)
キャッシュメモリを有効にします。
- Disabled
キャッシュメモリを無効にします。

Level 2 Cache (変更禁止)

システムの内部キャッシュ (L2) メモリの設定をします。

- Enabled (工場出荷設定値)
キャッシュメモリを有効にします。
- Disabled
キャッシュメモリを無効にします。

Memory at 15MB-16MB Reserved for (変更禁止)

15MB-16MB 間の 1MB のメモリをサーバに割り当てるか、拡張カードに割り当てるかを設定します。

- System (工場出荷設定値)
本サーバに割り当てます。
- Add-on Card
拡張カードに割り当てます。

PnP/PCI Options メニュー

オンボード上の PCI バスに関する設定を行うメニューです。PCI カードの IRQ の共有を設定する場合はこのメニューで設定します。

Setup Utility
PnP/PCI Options

PCI IRQ Setting	INTA	INTB	INTC	INTD
PCI Slot 1	[--]	[--]	[--]	[--]
PCI Slot 2	[--]	[--]	[--]	[--]
PCI Slot 3	[--]	[--]	[--]	[--]
PCI Slot 4	[--]	[--]	[--]	[--]
PCI Slot 5	[--]	[--]	[--]	[--]
PCI Slot 6	[--]	[--]	[--]	[--]
Onboard VGA	[--]			
Onboard LAN	[--]			
Onboard SCSI	[--]	[--]		
USB HOST Controller	[--]			

Item Help

<Alt+H> Key Help

Setup Utility
PnP/PCI Options

PCI IRQ Setting	[Yes]
VGA Palette Snoop	[Disabled]
Plug and Play OS	[No]
Reset Resource Assignments	[No]

Item Help

<Alt+H> Key Help

PCI IRQ Setting

オンボード VGA / オンボード LAN / オンボード SCSI / USB HOST Controller や PCI カードの割り込みレベル (IRQ) を表示する項目です。

- Auto (工場出荷設定値)
自動的に設定します。
- Manual
手動で設定します。

サーバモニタモジュール、暗号プロセッサカードを搭載する場合には「Manual」に設定して、使用する IRQ を変更します。

「Manual」設定時の留意事項を以下に示します。

- Onboard VGA / Onboard LAN / Onboard SCSI には、以下の割り込みレベル (IRQ) を設定してください。

項目	設定値 (推奨値)
Onboard VGA	9
Onboard LAN	10
Onboard SCSI	11、11 (*)

*) [INTA]、[INTB] とともに IRQ を 11 に設定してください。

- 各 PCI Slot への IRQ の設定については、「5.7 拡張カードの取り付け」(158 ページ) を参照してください。

PCI Slot 1 / PCI Slot 2 / PCI Slot 3 / PCI Slot 4 / PCI Slot 5 / PCI Slot 6

PCI カードを取り付けるときに、個別に割り込みレベルを設定します。IRQ の設定 / 共有については、「5.7 拡張カードの取り付け」(158 ページ) の拡張カードごとの留意事項に注意して設定 / 共有してください。

- -- (工場出荷設定値：自動的に設定されます)
- 05 / 09 / 10 / 11 / 15

Onboard VGA

サーバ本体の VGA の割り込みレベルを設定します。

- -- (工場出荷設定値：自動的に設定されます)
- 05 / 09 / 10 / 11 / 15

Onboard LAN

サーバ本体の LAN の割り込みレベルを設定します。

- -- (工場出荷設定値：自動的に設定されます)
- 05 / 09 / 10 / 11 / 15

Onboard SCSI

サーバ本体の SCSI コントローラの割り込みレベルを設定します。

- -- (工場出荷設定値：自動的に設定されます)
- 05 / 09 / 10 / 11 / 15

USB HOST Controller

USB コントローラの割り込みレベルを設定します。

- -- (工場出荷設定値：自動的に設定されます)
- 05 / 09 / 10 / 11 / 15

PCI IRQ Sharing (変更禁止)

複数の PCI カードで IRQ を共有させるかどうかを設定します。

- Yes (工場出荷設定値)
IRQ を共有させます。
- No
IRQ を共有させません。

VGA Palette Snoop (変更禁止)

サーバ本体のビデオコントローラのパレット情報 (画面に表示する色を定義した情報) を、ディスプレイカードなどのビデオコントローラからも参照できるように設定します。

- Enabled
ビデオコントローラから参照できます。
- Disabled (工場出荷設定値)
ビデオコントローラから参照できません。

Plug and Play OS (変更禁止)

システム起動時に、どのデバイスを初期化するかを設定します。

- Yes
プラグアンドプレイ対応の OS が、必要なデバイスだけを初期化します。
- No (工場出荷設定値)
すべてのデバイスを初期化します。

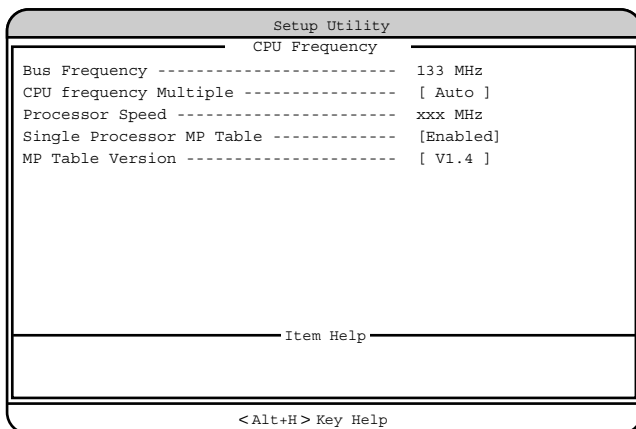
Reset Resource Assignments

PCI カードに割り当てたシステム資源 (I/O ポートアドレス、IRQ、メモリ空間など) をリセットするかどうかを設定します。(再起動後、PCI カードについては初期値に戻ります。)

- Yes
システム資源をリセットします。
- No (工場出荷設定値)
システム資源をリセットしません。

CPU Frequency メニュー

CPU Frequency メニューは、CPU の速度に関する設定をします。



Bus Frequency

外部周波数を表示します。

- 133MHz

CPU frequency Multiple

外部クロック周波数の倍率を設定します。

- Auto (工場出荷設定値)
- 2 / 2.5 / 3 / 3.5 / 4 / 4.5 / 5 / 5.5 / 6 / 6.5 / 7 / 7.5 / 8

Processor Speed

プロセッサ動作周波数を表示します。

Single Processor MP Table (変更禁止)

本サーバに搭載する OS で、MP(マルチプロセッサ)テーブルを有効とすることがどうかを設定します。

- Enabled (工場出荷設定値)
マルチプロセッサテーブルを有効とします。
- Disabled
マルチプロセッサテーブルを有効としません。

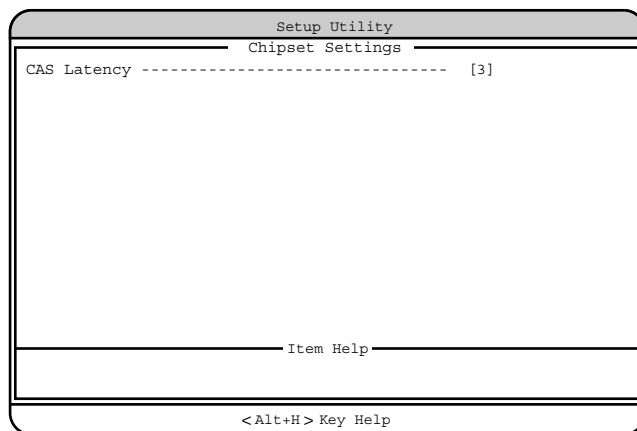
MP Table Version (変更禁止)

MP テーブルのバージョンを設定します。

- V1.1
- V1.4 (工場出荷設定値)

Chipset Settings メニュー

ベースボード上のチップセットに関する詳細情報を設定します。



CAS Latency (変更禁止)

- 2
- 3 (工場出荷設定値)
- By SPD

4.3.17 Load Default Settings メニュー

Load Default Settings メニューは、通常は選択する必要はありません。初期値は、工場出荷設定値と一部異なります。初期値から工場出荷設定値にするには、「4.5 BIOS 設定情報の退避 / 復元」(118 ページ) を参照して、設定内容を元の状態に戻してください。また、「B.1 コンフィグレーションシート」(336 ページ) を参照して、設定内容を確認してください。

初期値に戻す手順は、次のとおりです。

設定方法

- 1 メインメニューから、[F5] キーで Load Default Settings を選択して、[Enter] キーを押します。

次のメッセージが表示されます。

Do you want to load default Settings?

- 2 [F5] キーで Yes か No にカーソルを合わせて [Enter] キーを押します。

初期値に戻す場合は、[Yes] を選択します。初期値に戻したくない場合は、[No] を選択します。

4.3.18 Abort Settings Change メニュー

Abort Settings Change メニューでは、BIOS セットアップユーティリティで設定変更した 値を取り消す場合に選択します。

詳細は、次のとおりです。

設定方法

- 1 メインメニューから、[F5] キーで Abort Settings Change を選択して、[Enter] キーを押します。

次のメッセージが表示されます。

Do you want to abort settings change?

- 2 [F5] キーで [Yes] か [No] にカーソルを合わせて [Enter] キーを押します。

設定変更を取り消す場合には、[Yes] を選択します。取り消さない場合は、[No] を選択します。

Main メニューに戻ります。

4.4 SCSI Select ユーティリティを使う

SCSI Select ユーティリティは、以下の場合に行います。

- 本サーバ購入時に設定値を確認する場合
- SCSI コントローラや SCSI 装置の設定の変更や確認を行う場合
- SCSI オプションの物理フォーマット、または媒体検査を行う場合

4.4.1 SCSI Select ユーティリティの起動と終了

注意

SCSI Select ユーティリティを起動する前に、「RAS 支援サービス」の起動監視機能 (POST 監視) が「監視しない」に設定されていることを確認してください (初期値は「監視しない」です)。「監視する」に設定したまま、SCSI Select ユーティリティを起動すると、本サーバが自動的に電源切断や再起動するなど、意図しない動作をするおそれがあります。

「RAS 支援サービス」の起動監視機能を「監視する」に設定して運用している場合は、BIOS セットアップユーティリティ終了後、再度「RAS 支援サービス」で起動監視機能を「監視する」に設定してください。

RAS 支援サービスについては、「6.8 RAS 支援サービスについて」(255 ページ) を参照してください。

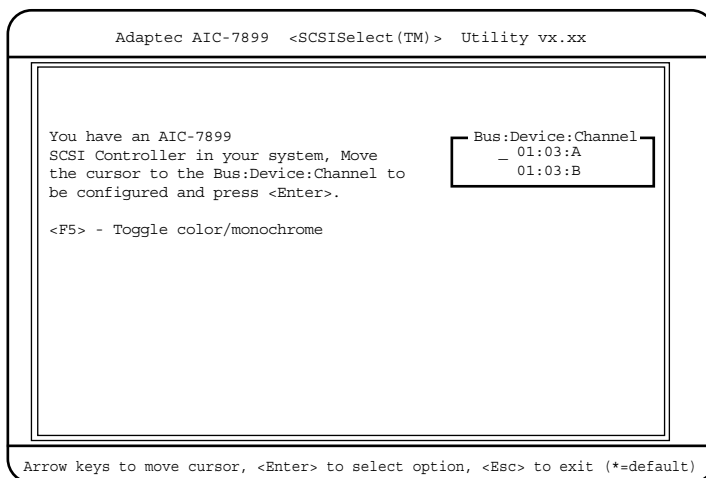
SCSI Select ユーティリティの起動と終了の方法は以下のとおりです。

SCSI Select ユーティリティの起動方法

SCSI Select ユーティリティの起動方法は、以下のとおりです。

- 1 サーバ起動時（POST 実行中）に、「Press < Ctrl > + < A > for SCSISelect (TM) Utility」と表示されている間に [Ctrl]+[A] キーを押します。

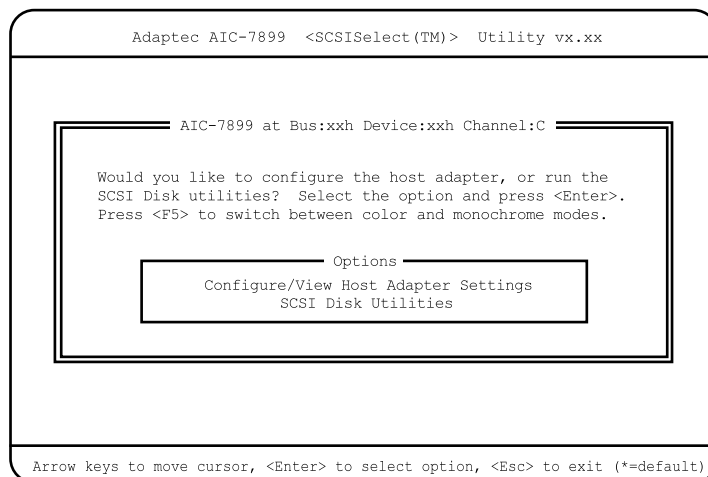
Bus:Device:Channel を選択する画面が起動します。



- 2 Bus:Device:Channel を選択し、[Enter] キーを押します。

Bus:Device:Channel	対応する SCSI コネクタ	備考
01:03:A	Wide SCSI コネクタ 1	内蔵ハードディスクユニット用
01:03:B	Wide SCSI コネクタ 2	内蔵オプション装置用

SCSI Select ユーティリティのメインメニューが表示されます。



- 3 項目を選択し、[Enter] キーを押します。
選択した項目のメニューが表示されます。

The screenshot shows a text-based menu for the Adaptec AIC-7899 SCSI configuration utility. The title bar at the top reads "Adaptec AIC-7899 <SCSISelect(TM)> Utility vx.xx". Below this, the main menu is titled "AIC-7899 at Bus:xxh Device:xxh Channel:X". The menu is divided into two main sections: "Configuration" and "BIOS Information". The "Configuration" section includes "SCSI Bus Interface Definitions" with sub-items "Host Adapter SCSI ID" (set to 7), "SCSI Parity Checking" (set to Enabled), and "Host Adapter SCSI Termination" (set to Enabled). It also includes "Additional Options" with sub-items "Boot Device Options", "SCSI Device Configuration", and "Advanced Configuration Options", each followed by the instruction "Press <Enter>". A prompt "<F6> - Reset to Host Adapter Default" is also present. The "BIOS Information" section includes "Interrupt (IRQ) Channel" (set to 11), "I/O Port Address" (set to 8400h), and "SCSI Termination Level" (set to 1). At the bottom of the screen, a footer line reads "Arrow keys to move cursor, <Enter> to select option, <Esc> to exit (*=default)".

```
Adaptec AIC-7899 <SCSISelect(TM)> Utility vx.xx

AIC-7899 at Bus:xxh Device:xxh Channel:X

Configuration
SCSI Bus Interface Definitions
Host Adapter SCSI ID.....7
SCSI Parity Checking.....Enabled
Host Adapter SCSI Termination.....Enabled

Additional Options
Boot Device Options.....Press <Enter>
SCSI Device Configuration.....Press <Enter>
Advanced Configuration Options.....Press <Enter>

<F6> - Reset to Host Adapter Default

BIOS Information
Interrupt (IRQ) Channel.....11
I/O Port Address.....8400h
SCSI Termination Level.....1

Arrow keys to move cursor, <Enter> to select option, <Esc> to exit (*=default)
```

- 4 各メニューから各設定を行います。

設定値の変更方法

SCSI Select ユーティリティの設定値を変更する方法は以下のとおりです。

- 1 [] [] キーを押して、設定を変更したい項目を選択します。
[] [] キーを押すと、選択項目が上下に動きます。
- 2 [Enter] キーを押します。
サブメニューがある項目はサブメニューが表示されます。サブメニューがない項目は設定値が変更されます。
- 3 サブメニューでも、Main メニューと同様に操作します。
[] [] キーを押して変更したい項目を選択し、[Enter] キーを押します。さらにサブメニューがある場合は、サブメニューが表示され、サブメニューがない場合は、変更項目が表示されます。
変更項目では、[] [] キーを押して設定値を選択し、[Enter] キーを押します。
- 4 設定が終わったら、[Esc] キーを押します。
変更した設定を保存するかどうかのメッセージ画面 ([Save Changes Mode?]) が表示されます。保存して初期画面に戻る場合は [Yes] を、保存しないで初期画面に戻る場合は [No] を選択し、[Enter] キーを押します。

SCSI Select ユーティリティを終了するときには、後述する「SCSI Select ユーティリティの終了方法」(106 ページ) を参照してください。

各キーの役割

- | | |
|---------|--|
| [] [] | カーソルを移動します。 |
| [Enter] | 項目を選択します。サブメニューがある場合は、サブメニューを表示します。 |
| [Esc] | 前のメニューに戻ります。
SCSI Select ユーティリティ初期画面では、SCSI Select ユーティリティを終了します。 |
| [F5] | SCSI Select ユーティリティ初期画面において、表示モードをカラーとモノクロで切り替えます。 |

SCSI Select ユーティリティの終了方法

SCSI Select ユーティリティの終了方法は以下のとおりです。

- 1 Main メニューで、[Esc] キーを押します。
SCSI Select ユーティリティを終了するかどうかのメッセージ画面 ([Exit Utility?]) が表示されます。終了する場合は [Yes] を選択し、[Enter] キーを押します。
SCSI Select ユーティリティが終了します。
- 2 再起動する旨の通知メッセージ「Please press any key to reboot」が表示されたら、どれかキーを押します。
システムが再起動します。



ポイント

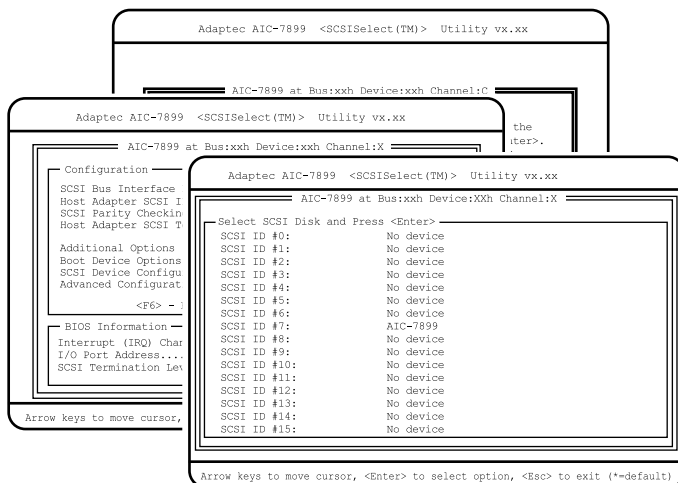
SCSI カード、およびその SCSI バス上の SCSI デバイスの設定を行う場合

- SCSI カードのユーティリティについては、各製品の取扱説明書を参照してください。
- SCSI Select ユーティリティでの設定は、各 SCSI バスに対して行ってください。

4.4.2 メニューと項目一覧

SCSI Select ユーティリティには、初期画面のほかに以下のオプション画面があります。

- **Configure/View Host Adapter Settings オプション画面**
SCSI バスインタフェースの定義、および追加オプションの設定が行えます。
- **SCSI Disk Utilities オプション画面**
SCSI バス上のすべてのデバイスをスキャンして、SCSI ID ごとにリストを表示します。



以下に、それぞれのメニュー項目を一覧で説明します。各項目の詳細は、次の節以降を参照してください。

Configure/View Host Adapter Settings オプション画面

項目	説明
SCSI Bus Interface Definitions	
Host Adapter SCSI ID	ホストコントローラの SCSI ID を設定します。
SCSI Parity Checking	データのパリティチェックを行うかどうかを設定します。
Host Adapter SCSI Termination	ホストコントローラの SCSI 終端（ターミネータ）を設定します。
Additional Options	
Boot Device Options	OS のブートを試みるハードディスクの SCSI ID を設定します。
SCSI Device Configuration	SCSI バス上の各 SCSI デバイスの詳細構成情報を設定します。
Advanced Configurations Options	SCSI BIOS の各種設定を行います。

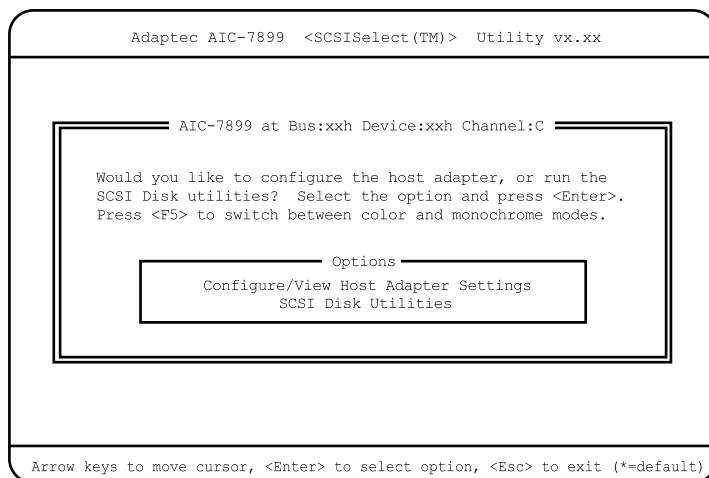
SCSI Disk Utilities メニュー

項目	説明
Select SCSI Disk and press	SCSI バスの全デバイスをスキャンし、SCSI ごとにリストを表示します。

4.4.3 Main メニュー

ここでは、Main メニューについて説明します。

SCSI Select ユーティリティを起動し、変更するバスチャネルを変更すると、最初にこのメニューが表示されます。



[] [] キーを押して設定を変更したいメニューにカーソルを合わせ、[Enter] キーを押すと、メニューが表示されます。

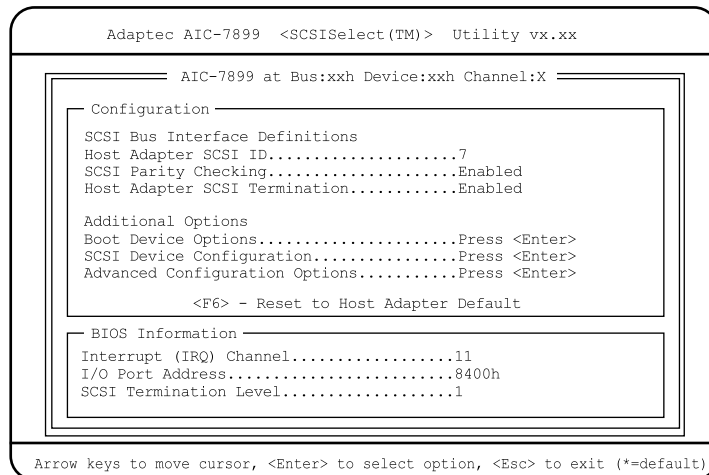
4.4.4 Configure/View Host Adapter Settings メニューの詳細

ここでは、Configure/View Host Adapter Setting メニューの設定項目の詳細について説明します。

Configure/View Host Adapter Setting メニューは、SCSI コントローラ全体の設定を行います。

各メニューの詳細なマークは、次を意味します。マークを以下に示します。

- : 項目名
- : 項目のサブメニュー
- : 設定内容



Host Adapter SCSI ID (変更禁止)

ホストコントローラの SCSI ID を設定します。

- 0 ~ 15

ホストコントローラの SCSI ID を、0 ~ 15 の範囲で設定します。
工場出荷設定値は、7 です。

SCSI Parity Checking (変更禁止)

ホストコントローラは、SCSI バスからデータを読み込むとき、常にデータのパリティチェックを行い、SCSI デバイスからの正しいデータ転送を確認します。本サーバではサポートする SCSI デバイスはすべて SCSI パリティ機能を使うことができますので、初期値は「Enabled」に設定しています。

逆に SCSI パリティをサポートしていない SCSI デバイスを接続する場合は、本設定を「Disabled」に設定します。

- Enabled (工場出荷設定値)
ホストコントローラの SCSI パリティチェックを有効にします。
- Disabled
ホストコントローラの SCSI パリティチェックを無効にします。

Host Adapter SCSI Termination (変更禁止)

ホストコントローラの SCSI 終端 (ターミネータ) を設定します。

- Enabled (工場出荷設定値)
ホストコントローラの SCSI 終端 (ターミネータ) を有効にします。
- Disabled
ホストコントローラの SCSI 終端 (ターミネータ) を無効にします。

Boot Device Options (変更禁止)

Boot Channel

OS のブートを試みるハードディスクが接続されているチャンネルを設定します。

- A First (工場出荷設定値)
チャンネル A (Wide SCSI コネクタ 1) に接続されているハードディスクからブートを試みます。
- B First
チャンネル B (Wide SCSI コネクタ 2) に接続されているハードディスクからブートを試みます。

Boot SCSI ID

OS のブートを試みるハードディスクの SCSI ID を設定します。

- 0 ~ 15
工場出荷設定値は 0 です。

Boot LUN Number

OS のブートを試みる LUN ナンバーを設定します。

- 0 ~ 7
工場出荷設定値は 0 です。

SCSI Device Configuration (変更禁止)

SCSI バス上の各 SCSI デバイスの詳細構成情報を設定します。

カーソルを合わせて [Enter] キーを押すと、SCSI Device Configuration サブメニューが表示されます。

Adaptec AIC-7899 <SCSISelect(TM)> Utility vx.xx

SCSI Device Configuration

SCSI Device ID	#0	#1	#2	#3	#4	#5	#6	#7
Sync Transfer Rate(MB/Sec).....	160	160	160	160	160	160	160	160
Initiate Wide Negotiation.....	yes	yes	yes	yes	yes	yes	yes	yes
Enable Disconnection.....	yes	yes	yes	yes	yes	yes	yes	yes
Send Start Unit Command.....	yes	yes	yes	yes	yes	yes	yes	yes
Options Listed Below Have No EFFECT if the BIOS is Disabled								
Enable Write Back Cache.....	N/C	N/C	N/C	N/C	N/C	N/C	N/C	N/C
BIOS Multiple LUN Support.....	no	no	no	no	no	no	no	no
Include in BIOS Scan.....	yes	yes	yes	yes	yes	yes	yes	yes

SCSI Device ID	#8	#9	#10	#11	#12	#13	#14	#15
Sync Transfer Rate(MB/Sec).....	160	160	160	160	160	160	160	160
Initiate Wide Negotiation.....	yes	yes	yes	yes	yes	yes	yes	yes
Enable Disconnection.....	yes	yes	yes	yes	yes	yes	yes	yes
Send Start Unit Command.....	yes	yes	yes	yes	yes	yes	yes	yes
Options Listed Below Have No EFFECT if the BIOS is Disabled								
Enable Write Back Cache.....	N/C	N/C	N/C	N/C	N/C	N/C	N/C	N/C
BIOS Multiple LUN Support.....	no	no	no	no	no	no	no	no
Include in BIOS Scan.....	yes	yes	yes	yes	yes	yes	yes	yes

Arrow keys to move cursor, <Enter> to select option, <Esc> to exit (*=default)

Sync Transfer Rate(MB/Sec)

SCSI カードがサポートする最大同期転送速度を設定します。

- 160.0 (工場出荷設定値)
- ASYN / 10.0 / 13.4 / 16.0 / 20.0 / 26.8 / 32.0 / 40.0 / 53.4 / 80.0

Initiate Wide Negotiation

ホストコントローラが Wide SCSI デバイスを取り扱う場合に設定します。

- Yes (工場出荷設定値)
ホストコントローラが Wide SCSI デバイスを取り扱います。
- No
ホストコントローラが Wide SCSI デバイスを取り扱いません。

Enable Disconnection

ホストコントローラが、SCSI デバイスに対し、SCSI バスからの切断 (ディスクネクション) を許容するかどうかを設定します。

- Yes (工場出荷設定値)
SCSI デバイスは、SCSI バスからの切断が許可されます。この場合、SCSI デバイスが SCSI バスから一時的に切断している間に、ホストコントローラがその SCSI バス上で他のオペレーションを実行できます。ホストコントローラに2台以上の SCSI デバイスを接続する場合に有効です。
- No
SCSI デバイスは、SCSI バスからの切断が許されません。

Send Start Unit Command

ホストコントローラが、SCSI デバイスにスタートユニットコマンド (SCSI コマンド 1B) を送信するかどうかを設定します。
このオプション設定と SCSI デバイスのハードウェア設定 (ジャンパ設定など) の組み合わせによって、サーバ本体の電源にかかる負荷を軽減するため、サーバ起動時にホストコントローラが SCSI デバイスに 1 台ずつ順次電源を投入していくことができます。
この設定は、ホストコントローラの SCSI BIOS が「Enabled」に設定されている場合にのみ有効となります。

- Yes (工場出荷設定値)
SCSI デバイスにスタートユニットコマンドを送信します。
- No
SCSI デバイスにスタートユニットコマンドを送信しません。

Enabled Write Back Cache

SCSI デバイスのライトバックキャッシュを設定します。

- Yes
ライトバックキャッシュを有効にします。
- No
ライトバックキャッシュを無効にします。
- N/C (工場出荷設定値)
ライトバックキャッシュの設定を行いません。

BIOS Multiple LUN Support

複数の LUN がある SCSI デバイスをサポートするかどうかを設定します。

- Yes
サポートします。
- No (工場出荷設定値)
サポートしません。

Include in BIOS Scan

ホストコントローラの SCSI が SCSI デバイスのデバイスドライバ (ソフトウェア) を用いずにサポートするかどうかを設定します。
この設定は、ホストコントローラの SCSI BIOS が「Enabled」に設定されている場合にのみ有効となります。
SCSI カード (GP5-127) 搭載時は、起動ディスクを接続する SCSI ID だけ「Yes」を設定します。その他は「No」を設定します。

- Yes (工場出荷設定値)
ホストコントローラの SCSI BIOS は、その SCSI デバイスを制御します。
- No
ホストコントローラの SCSI BIOS は、その SCSI デバイスを制御しません。
SCSI デバイスである光磁気ディスク装置を接続している場合、本設定を「No」に設定することによって本体電源投入後に光磁気ディスク媒体の有無を確認しないため、起動時間を約 1 分間削減できます。

Advanced Configuration Options

SCSI BIOS の各種設定を行います。

カーソルを合わせて [Enter] キーを押すと、Advanced Configuration Options サブメニューが表示されます。

The screenshot shows the 'Advanced Configuration Options' menu within the 'Adaptec AIC-7899 <SCSISelect(TM)> Utility vx.xx'. The menu is titled 'Configuration' and 'SCSI Bus Interface Definitions'. It lists several options, all of which are currently set to 'Enabled' or 'Disabled' as follows:

- Reset SCSI Bus at IC Initialization.....Enabled
- Display <Ctrl><A> Message During BIOS Initialization.....Enabled
- Extended BIOS Translation for DOS Drives > 1Gbyte.....Enabled
- Verbose/Silent Mode.....Verbose

A note states: 'Options Listed Below Have NO EFFECT if the BIOS is Disabled'. Below this, more options are listed:

- Host Adapter BIOS.....Enabled
- Domain Validation.....Enabled
- Support Removable Disks under BIOS as Fixed Disks.....Disabled
- BIOS Support for Bootable CD-ROM.....Enabled
- BIOS Support for Int13 Extensions.....Enabled

At the bottom, a footer reads: 'Arrow keys to move cursor, <Enter> to select option, <Esc> to exit (*=default)'.

Reset SCSI Bus at IC Initialization (変更禁止)

サーバ起動時に、ホストコントローラが SCSI バスのリセット信号を出すかどうかを設定します。

- Enabled (工場出荷設定値)
ホストコントローラの初期化の際に、SCSI BIOS が SCSI バスをリセットし、それから 2 秒後に SCSI オプションのスキャンを開始します。
- Disabled
ホストコントローラの初期化の際に、SCSI バスのリセットを行いません。

Display < Ctrl >< A > Message During BIOS Initialization (変更禁止)

電源投入時に SCSI Select ユーティリティを起動するためのメッセージを CRT 画面上に表示するかどうかを設定します。

- Enabled (工場出荷設定値)
SCSI Select ユーティリティを起動するためのメッセージを CRT 画面上に表示します。
- Disabled
SCSI Select ユーティリティを起動するためのメッセージを CRT 画面上に表示しません。

Extended BIOS Translation for DOS Drive > 1 Gbyte (変更禁止)

1GB(1024MB) より大きい記憶容量をもつ SCSI 固定ディスクドライブのための拡張トランスレーション機能の有効 / 無効を設定します。
この設定は、ホストコントローラの SCSI BIOS が「Enabled」に設定されている場合にのみ有効となります。

- Enabled (工場出荷設定値)
1GB 以上の SCSI 固定ディスクドライブに対しては、255 ヘッド、トラック当たり 63 セクタの拡張トランスレーション方式をとり、1GB 以下の SCSI 固定ディスクドライブに対しては、64 ヘッド、トラック当たり 32 セクタの標準トランスレーション方式を採用します。
OS が Windows NT Server 4.0 の場合は、「Enabled」に設定します。
- Disabled
すべての SCSI 固定ディスクドライブに対して、64 ヘッド、トラック当たり 32 セクタの標準トランスレーション方式を採用します。
OS が NetWare の場合は、「Disabled」に設定します。

Verbose/Silent Mode (変更禁止)

POST 画面に表示されるホストアダプタや SCSI デバイスなどの情報量を設定します。

- Verbose (工場出荷設定値)
BIOS 初期化時にメッセージを表示します。
- Silent
BIOS 初期化時にメッセージを表示しません。

Host Adapter BIOS(Configuration Utility Reserves BIOS Space)

ホストコントローラの SCSI BIOS の有効 / 無効を設定します。

- Enabled (工場出荷設定値)
ホストコントローラに接続されている SCSI 固定ディスクドライブからサーバをブートする場合に設定します。また、本設定を有効にしなければ、SCSI Select ユーティリティ内のいくつかのオプション設定が機能しません。
- Disabled
ホストコントローラの SCSI BIOS を無効に設定します。
ブートデバイスが接続されていないカードは、必ず [Disabled] に設定してください。
「Disabled:not scan」
SCSI カードの POST 時に、SCSI デバイスのスキャンを行いません。
「Disabled:scanbus」
SCSI カードの POST 時に、SCSI デバイスのスキャンを行います。

Domain Validation (変更禁止)

実際にデバイスとデータ転送を行い、転送速度を最適化する Domain Validation を行うかどうかを設定します。

- Enabled (工場出荷設定値)
Domain Validation を行います。

-
- Disabled
Domain Validation を行いません。

Support Removable Disks Under BIOS as Fixed Disks (変更禁止)

リムーバブル・ディスクユニット (光磁気ディスクユニット) を SCSI BIOS の下で、SCSI 固定ディスクドライブとしてサポートするかどうかを設定します。

この設定はホストコントローラの SCSI BIOS が「Enabled」に設定されている場合にのみ有効となります。

- Boot Only
ブートデバイスに指定されたリムーバブル・ディスクユニットのみが、SCSI 固定ディスクドライブとして扱われます。
- All Disks
SCSI BIOS でサポートしているすべてのリムーバブル・ディスクユニットが、SCSI 固定ディスクドライブとして扱われます。
- Disabled (工場出荷設定値)
リムーバブル・ディスクユニットは、SCSI 固定ディスクドライブとして扱われません。

BIOS Support for Bootable CD-ROM (変更禁止)

CD-ROM からのブートを行うかどうかを設定します。

- Disabled
CD-ROM からブートを行いません。
- Enabled (工場出荷設定値)
CD-ROM からブートを行います。

BIOS Support for Int 13 Extensions (変更禁止)

1024 シリンダより大きい容量のハードディスクをサポートするかどうかを設定します。

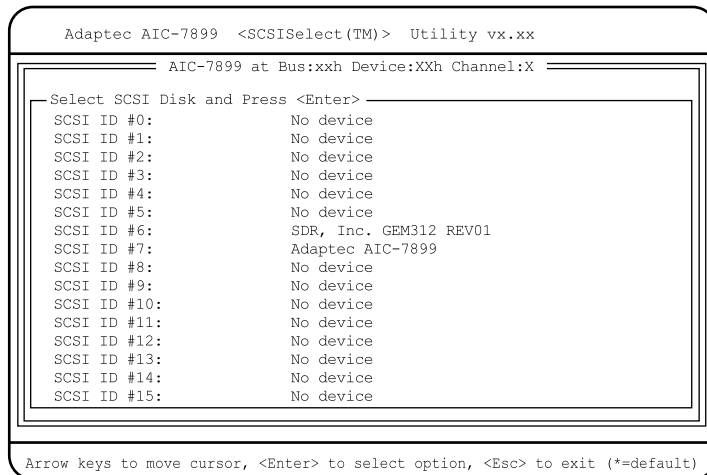
- Enabled (工場出荷設定値)
1024 シリンダより大きい容量のハードディスクをサポートします。
- Disabled
1024 シリンダより大きい容量のハードディスクをサポートしません。

4.4.5 SCSI Disk Utilities メニューの詳細

ここでは、SCSI Disk Utilities メニューの設定項目の詳細について説明します。
本ユーティリティでは、SCSI バスの全デバイスをスキャンし、SCSI ID ごとにリストを表示します。

各メニューの詳細なマークは、次を意味します。マークを以下に示します。

- : 項目名
- : 項目のサブメニュー
- : 設定内容



リスト中のデバイスを選択すると、以下の操作ができます。

Format Disk

選択したハードディスクに対して、物理フォーマットを行います。

⚠ 注意

- 本項目の物理フォーマットは、選択したハードディスクの全データを消去します。この機能を使う前には必ずバックアップを取っておいてください。物理フォーマットが開始されると、中断することはできません。
- 物理フォーマット中にサーバ本体の電源を切ったり、リセットなどを行うとハードディスクなどが破損するおそれがあります。

Verify Media

選択した SCSI デバイスの媒体 (メディア) のベリファイ (検査) を行います。不良ブロックが検出された場合、その割り付けを解除するかどうかプロンプト・メッセージが表示されます。「Yes」を選択すると、そのブロックは使用されなくなります。



ヘルプ

媒体のベリファイは、[Esc] キーを押すことでいつでも中断できます。

4.5 BIOS 設定情報の退避 / 復元

本サーバには、BIOS セットアップユーティリティによって設定された情報の退避、復元処理を行う BIOS Setup Rescue が添付されています。

BIOS Setup Rescue を利用すると、本サーバの内蔵バッテリーの消耗などによって消去された設定情報を元の状態に復元できます。

BIOS Setup Rescue は、本サーバに添付の「BIOS Environment Support Tools」ディスクに含まれています。

⚠ 注意

次のいずれかの操作を行った場合、必ず BIOS 情報の退避を行ってください。

- 本サーバを初めて使用する場合
- BIOS セットアップユーティリティによって情報変更を行った場合
- 本サーバのハードウェア構成を変更した場合
具体的には、CPU、メモリ、ベースボードあるいは PCI カードの増減・変更があった場合です。

ここでは、BIOS Setup Rescue を使用するための準備、退避手順、復元手順および注意事項について説明します。

BIOS Setup Rescue を使用するための準備

BIOS Setup Rescue を使用するためには、以下のものを用意してください。

- 本サーバに添付の ServerWizard CD
- 本サーバに添付の「BIOS Environment Support Tools」ディスク

BIOS Setup Rescue による BIOS 情報の退避

BIOS 情報の退避手順を以下に示します。

⚠ 注意

BIOS セットアップユーティリティを起動する前に、「RAS 支援サービス」の起動監視機能が「監視しない」に設定されていることを確認してください（初期値は「監視しない」です）。
「監視する」に設定したまま、BIOS セットアップユーティリティを起動すると、本サーバが自動的に電源切断や再起動するなど、意図しない動作をするおそれがあります。
「RAS 支援サービス」の起動監視機能を「監視する」に設定して運用している場合は、MS-DOS 終了後、再度「RAS 支援サービス」で起動監視機能を「監視する」に設定してください。
RAS 支援サービスについては、「6.8 RAS 支援サービスについて」（255 ページ）を参照してください。

- 1 電源を投入し、ServerWizard CD をセットします。
電源を投入して、POST 中 (RAM モジュールのチェックなどのメッセージが表示されている間) に、CD-ROM の取出しボタン (EJECT) を押して、ServerWizard CD をセットします。
次の画面が表示されます。

```
MS-DOS 6.2 Startup Menu

1.ServerWizard
2.Basic(BIOS Environment Support Tools)
3.Basic(DACCFG)
4.SMM Utility(Setup/Test)
5.HDD firmware update
6.Product ID Recovery Utility
```

- 2 「2.Basic(BIOS Environment Support Tools)」を選択し、[Enter] キーを押します。
DOS プロンプトが表示されます。
- 3 「BIOS EnvironmentSupport Tools」ディスクをフロッピーディスクドライブにセットします。
セットしたら、以下のコマンドを入力し、BIOS 情報の退避を行います。

```
A:\>b: [Enter]
B:\>cd bsr [Enter]
B:\BSR>rdconf [Enter]
```

- 4 既に退避処理を行ったことがある場合は、以下のメッセージが表示されます。
退避されている情報を更新してもよければ [Y] キーを押してください。ステップ 5 に進みます。更新したくない場合は、[N] キーを押してください。この場合、BIOS 情報の退避処理は実行されずにプログラムは終了します。

```
Do you want to overwrite it ?[y/n]
```

- 5 正常に BIOS 情報を退避できた場合、以下のメッセージが表示されます。
以上で、退避処理は完了ですので、電源切断を行っても構いません。

```
Normal end. Now, you can turn off the system.
```

BIOS Setup Rescue による BIOS 情報の復元

本サーバの内蔵バッテリーの消耗などによって、BIOS セットアップユーティリティで設定した情報が消去された場合、以下の手順で BIOS 情報の復元処理を行ってください。

⚠ 注意

- BIOS セットアップユーティリティを起動する前に、「RAS 支援サービス」の起動監視機能が「監視しない」に設定されていることを確認してください（初期値は「監視しない」です）。
「監視する」に設定したまま、BIOS セットアップユーティリティを起動すると、本サーバが自動的に電源切断や再起動するなど、意図しない動作をするおそれがあります。
「RAS 支援サービス」の起動監視機能を「監視する」に設定して運用している場合は、MS-DOS 終了後、再度「RAS 支援サービス」で起動監視機能を「監視する」に設定してください。
RAS 支援サービスについては、「6.8 RAS 支援サービスについて」（255 ページ）を参照してください。
- プログラム実行中は電源を切断しないでください。

1 電源を投入し、ServerWizard CD をセットします。

電源を投入して、POST 中 (RAM モジュールのチェックなどのメッセージが表示されている間) に、CD-ROM の取出しボタン (EJECT) を押して、ServerWizard CD をセットします。
次の画面が表示されます。

```
MS-DOS 6.2 Startup Menu
-----

1.ServerWizard
2.Basic(BIOS Environment Support Tools)
3.Basic(DACCFG)
4.SMM Utility(Setup/Test)
5.HDD firmware update
6.Product ID Recovery Utility
```

2 「2.Basic(BIOS Environment Support Tools)」を選択し、[Enter] キーを押します。

DOS プロンプトが表示されます。

3 「BIOS Environment Support Tools」ディスクをフロッピーディスクドライブにセットします。

セットしたら、以下のコマンドを入力し、BIOS 情報の復元を行います。

```
A:\>b: [Enter]
B:\>cd bsr [Enter]
B:\BSR>wtconf [Enter]
```

- 4 正常に BIOS 情報を復元できた場合、以下のメッセージが表示されます。

Normal end. Please restart the system in order to validate configuration.

- 5 BIOS の情報が有効になるのは次のシステム再起動後になりますので、速やかにサーバを再起動してください。
DOS プロンプト (B:\BSR>) が表示されましたら復元処理は完了ですので、電源切断を行っても構いません。

注意事項

- BIOS Setup Rescue は、本サーバ専用です。他システムでは絶対に使用しないでください。使用した場合、システムを破壊する可能性があります。
- BIOS Setup Rescue は、BIOS セットアップユーティリティによって設定される情報のみを退避 / 復元することができます。内蔵 SCSI 装置や増設カードの BIOS 情報については退避 / 復元できません。
- BIOS Setup Rescue は、前述の方法でサーバを起動した状態で実行してください。他のフロッピーディスクやハードディスクから起動された状態で BIOS Setup Rescue を実行しないでください。実行した場合、システムを破壊する可能性があります。
- フロッピーディスクアクセス表示ランプの点灯中に、フロッピーディスクを取り出さないように注意してください。取り出した場合、フロッピーディスクのデータ破壊だけでなくシステムの状態が不安定となる可能性があります。絶対に行わないでください。
- BIOS Setup Rescue を実行中に次に示すエラーメッセージが表示される可能性があります。表に示す対処に従ってください。なお、次に示すメッセージ以外が表示された場合は担当保守員に連絡してください。

メッセージ	対処
Write protect error writing drive B. Abort, Retry, Fail?	セットされたフロッピーディスクがライトプロテクト状態です。ライトプロテクト状態を解除した後、[R] キーを押してください。
Not ready writing drive B. Abort, Retry, Fail?	フロッピーディスクドライブにフロッピーディスクがセットされていない状態です。正しいフロッピーディスク（「BIOS Setup Rescue」ディスク）をセットした後、[R] キーを押してください。
ERROR:This program doesn't run on this system.	セットされたフロッピーディスクがサポートしていないモデルです。正しいフロッピーディスクをセットしてから再度実行してください。

メッセージ	対処
ERROR:Fail to create data file.	<p>以下の原因が考えられます。フロッピーディスクの状態を再確認してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> - フロッピーディスクがライトプロテクト状態です。ライトプロテクトを解除してから再度実行してください。 - フロッピーディスクがフロッピーディスクドライブにセットされていません。正しいフロッピーディスクをセットしてから再度実行してください。 - フロッピーディスクの内容が異常です。再度、「BIOS Setup Rescue」を作成してください。BIOS 情報の復元中に発生した場合は、BIOS セットアップユーティリティにて情報を設定してください。その後、BIOS 情報の退避処理も行ってください。
ERROR:Fail to write 1st CMOS data into data file. XX	
ERROR:Fail to write 2nd CMOS data into data file. XX	
ERROR:Fail to write ESCD data into the data file. XX	
ERROR:Fail to write SEEPROM data into the data file. XX	<p>セットされたフロッピーディスク内に BIOS 情報を復元するためのファイルが存在しません。BIOS 情報を退避したフロッピーディスクをセットしてから再度実行してください。</p>
ERROR:Fail to open data file.	
ERROR:Fail to write 1st CMOS data into system. XX	
ERROR:Fail to write 2nd CMOS data into system file. XX	
ERROR:Fail to write ESCD data into system file. XX	<p>以下の原因が考えられます。フロッピーディスクの状態を再確認してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> - フロッピーディスクがフロッピーディスクドライブにセットされていません。正しいフロッピーディスクをセットしてから再度実行してください。 - 他のモデルまたはサポートしていない版数の BIOS 情報です。正しいフロッピーディスクをセットしてから再度実行してください。 - フロッピーディスクの内容が異常です。再度、「BIOS Setup Rescue」を作成してください。BIOS 情報の復元中に発生した場合は、BIOS セットアップユーティリティにて情報を設定してください。その後、BIOS 情報の退避処理も行ってください。
ERROR:Fail to write SEEPROM data into system. XX	
その他のメッセージ	担当保守員にご連絡ください。